

太名嘉組 50年史

Onaka 50th anniversary



未来をつくる

BUILD THE FUTURE

さまざまな人の夢や希望がつまった
誰もが幸せに暮らせる未来を創りたい。

社員一人ひとりの夢を形にしながら

顧客のニーズに対して誠実に応え

これからも未来に誇れる「ものづくり」を通して
豊かな地域社会の実現に貢献していく。

"THE FUTURE" OF OKINAWA

沖縄の「未来」

使命感を持って

未来に残るインフラを創っていく





"THE FUTURE" OF HUMAN RESOURCES

人材の「未来」

やりがいや誇りを大切にする人材育成



"THE FUTURE" OF CHILDREN

子ども達の「未来」

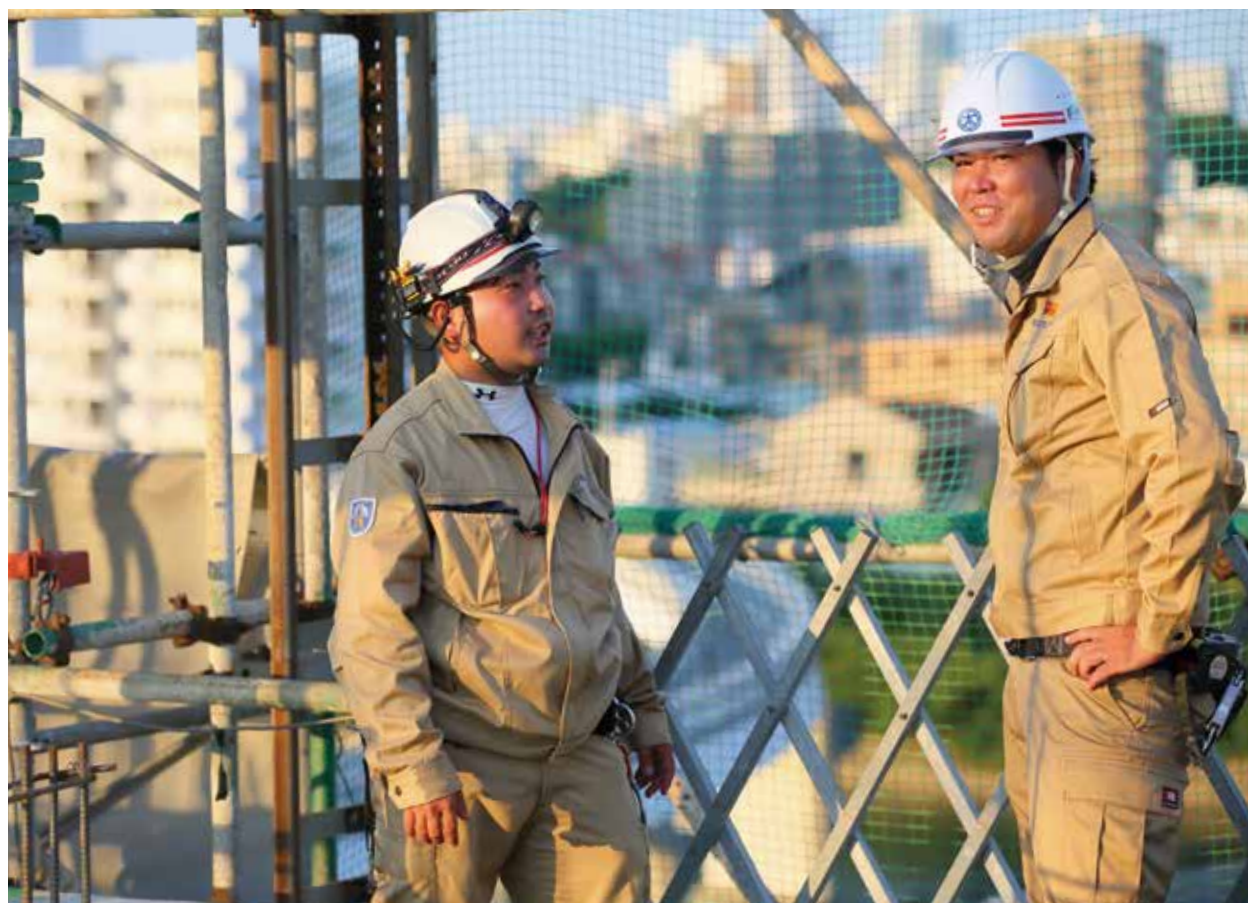
豊かな自然を守り、子ども達の未来を創造する



"THE FUTURE" OF EMPLOYEES

社員の「未来」

社員一人ひとりの夢や幸せを
実現していく



"THE FUTURE" OF ONAKA

太名嘉組の「未来」

夢と希望がつまった未来をこれからも創っていく





社 是 誠 心 誠 意

社 訓

- 収 益 性 = 企業として利益を追求する事を忘れてはならない
- 安 全 性 = 現場は常に安全第一とすべし
- 教 育 性 = 人格は教育に有り人が人を造り社会を造る
- 品質の向上性 = 受注を上げるには技術力を高め品質の向上を図る
- 社 会 性 = 会社というものは信頼され
そして貢献するこれが真の企業である

豊かな地域社会の 実現に貢献

私たちは昔からこの島で
知恵を出し合い
環境と共存してきた
この地球を
宇宙に浮かぶ一つの島とみるなら
島の知恵は
世界の知恵ともいえる。



株式会社 太名嘉組 代表取締役社長 名嘉 太助

発刊のご挨拶

皆様には、コロナ禍にあっても益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。株式会社 太名嘉組は、2022年5月に創業50周年を迎えました。これもひとえに多くのお客様、関係者の皆様方のご指導ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。株式会社 太名嘉組は沖縄の本土復帰の年に現会長である名嘉謙が伊平屋島で創業いたしました。創業時の建設業を取り巻く社会環境は沖縄振興計画による道路事業、港湾、ダム建設、沖縄国際海洋博覧会など多くの公共事業が進められており、弊社も伊平屋村内の公共事業を始め県内の大型工事の下請け等で着実に実績を積み重ね1982年に浦添市に拠点を移し、現在、総合建設業として建築工事・土木工事・米軍工事・環境事業を展開しております。

弊社は、創業から掲げる社是の「誠心誠意」で顧客に応えることを第一に社員教育と人材育成に努めております。その成果も着実に歩み始めており創業の志・創業50年の経験・知識・技術力を持って、次の100年へ向かって成長し続ける企業を目指して参る所存でございます。何卒これからも皆様方のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。結びに皆様方の益々のご活躍を祈念するとともに、ご多忙の中、祝辞を頂いた伊平屋村長 名嘉 律夫 様、浦添市長 松本 哲治 様にお礼申し上げ、発刊のご挨拶と致します。



株式会社 太名嘉組 代表取締役会長 名嘉 謙

創業50周年を迎えて

伊平屋島から建設業の道へ

株式会社 太名嘉組は、1972年に前身となる名嘉建設を伊平屋島で創業いたしました。会社立ち上げを決意したのは、「島の人々の暮らしを豊かにしたい」「伊平屋村の発展に尽力したい」との思いからです。創業当初は、伊平屋村内の建築工事と大手の下請けでの漁港・港湾工事・土地改良工事等の土木工事を主体としておりました。伊平屋村内での工事実績、社員数が増えるなか、会社の将来と発展を見据え、沖縄本島に進出し本社を浦添市に移転した転機に商号を太名嘉組に変更し組織を強化しながら規模を拡大してまいりました。

創業当時は沖縄の日本復帰における、本土企業の沖縄県への進出や沖縄県の建設業登録制度に伴い受注競争の激しい時代でもありました。弊社の創業50年の半世紀を振り返り見ますと、沖縄返還の激動の時代を経て沖縄県の経済発展に向けた公共事業・民間投資等の好調な時期もありましたが、社会の変遷による公共工事の規模縮小やバブル崩壊と厳しい中では、取引先の要因による苦難も経験しました。令和の良き日に社員・取引企業・多くの皆様に支えられて創業50年を迎えられたこと、心より感謝をいたしております。今後とも皆様方のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。創業50周年のご挨拶といたします。



伊平屋村長

名嘉 律夫

祝 地域と共に歩んだ50周年

株式会社太名嘉組が、創業50周年を迎えられることを心からお祝い申し上げます。

御社におかれましては、創業者である現会長の名嘉謙氏が、昭和47年にふるさと伊平屋村にて名嘉建設を設立されて以来、半世紀の長きにわたり建設業をもって島の発展にご尽力くださいました。

昭和47年は沖縄県の歴史転換となる本土復帰の年であります。当時の本村の主要産業は農林水産業であり建設事業は仕事も少なく従事する村民は僅かでしたが、復帰後の社会インフラ整備推進により従事する村民も増えていきました。御社はその当時から雇用創出と建設業人材の育成を通じ村経済の発展に大いにお力添えをいただきました。

その後、昭和57年には太名嘉組へ組織改編し、復帰後の沖縄県の発展とシンクロするように社業を発展させ沖縄県有数の企業へと成長した歴史を振り返りますと感慨深いものがあります。

御社が今日のご隆盛を迎えられましたのは、ひとえに名嘉会長、名嘉社長の優れた経営力・決断力によるものであり、また創業以来引き継いできた社是「誠心誠意」をモットーに、5つの社訓を掲げ、企業として利益の追求のみならず、社会に貢献することを念頭に社員一丸となり取り組んできた賜と深く敬意を表します。

さて、創業地伊平屋は、昭和30年の人口4,008人をピークに減少に転じ過疎化が進行しています。これまで4次に亘る伊平屋村総合計画に基づき経済発展と人口増加を図ってきましたが、未だ目標達成となっていません。令和4年度からは第5次総合計画に則って村の課題解決、振興に取り組むことにしておりますが、地域の発展は行政のみならず住民そして地域の企業の結集が必要となります。太名嘉組の皆様には、今後とも住みよい村づくりのため、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、御社がこの50周年を節目に更なるご発展と、名嘉社長をはじめ、社員一同のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



浦添市長

松本 哲治

より一層の飛躍を祈念いたしております

「太名嘉組50年史」が発行されるにあたり、お祝いのごあいさつを申し上げます。

はじめに、株式会社太名嘉組 名嘉太助代表取締役をはじめ、社員の皆様並びに関係者の皆様に心からお祝い申し上げます。

株式会社太名嘉組様におかれましては、1972年に設立以来「誠心誠意」をモットーに、地元に密着した総合建設業として信頼と実績を積み重ね、本市を代表する企業の一つとして大きく成長し、このたび50周年という大きな節目を迎えられます。

長年にわたる献身的な活動と輝かしいご功績に心から敬意を表するとともに、「まちづくりプラン賞」や「てだこまつり」をはじめとする本市の各種事業にもご協力頂くなど、本市のまちづくりを力強く支えて頂きますことに、深く感謝申し上げます。

さて、ご承知のとおり、長期にわたるコロナの影響は、私たちに様々な課題を投げかけております。

とりわけ、急速に進むデジタル化やSDGsに対する関心の高まりなどは、これまでの社会の在り方自体を大きく変革させるような潮流の変化をもたらしており、御社におかれましても様々な改善に取り組まれていることと存じます。

本市としましても、これらの変化に臆することなく、浦添市が持つポテンシャルの高さを最大限に生かしていく取り組みを、市民の皆様、太名嘉組様をはじめとする企業の皆様、各種団体の皆様とともに展開してまいりますので、今後とも、本市ひいては本県の発展のため、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、御社がこれからも築き上げてこられた信頼と実績を生かし、地域や県民の暮らしに寄り添う企業として、社員一丸となってさらなる飛躍を遂げられんことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

2 口絵

14 社是・社訓

16 発刊のご挨拶

代表取締役社長 名嘉太助

18 創業50周年を迎えて

代表取締役会長 名嘉謙

20 祝辞

伊平屋村長 名嘉律夫
浦添市長 松本哲治

24 ONAKA CHRONICLE 一通史一

34 太名嘉組 50年の軌跡 一写真とトピックで振り返る50年一

46 名嘉太助社長インタビュー

To The Future [太名嘉組の明日へ]

50 中堅×若手社員座談会

ABOUT The FUTURE [社員が語る太名嘉組の今と未来]

58 部署紹介

営業部／土木部／建築部／米軍部／総務部／経理部／安全管理室／
伊平屋支店／伊平屋生コンプラント・アスファルトプラント

72 資料編

会社概要／売上高／現役員／組織図／歴代役員任期一覧／訓示／
工事実績

92 編集後記

凡 例

1. 本書の記述対象は、1972（昭和47）年から2022（令和4）年7月までの太名嘉組の歩みをまとめたものである。
ただし、一部必要な箇所は1972（昭和47）年以前の事項にも触れた。
2. 用語、その他については次のように統一した。
 - ・原則として常用漢字・現代かなづかいを用いたが、固有名詞、専門用語、慣用化されたものなどはそれに従い、必ずしもこれによらなかった。
 - ・人名は敬称を省略し、役職、法人名、団体名等は当時のものを基本とした。
 - ・本文中の数字は算用数字を用い、万以上の数字には億・万の単位を併用した。
 - ・掲載している写真は竣工当時のものとは限らない。
 - ・年号は原則として西暦と和暦を併用した。

参考文献・写真提供

伊平屋村・分村50年のあゆみ／島尻のあゆみ 島尻公民館建設記念誌／62年海邦国体
沖縄県立公文書館／伊平屋村役場

1972 2021 ONAKA CHRONICLE

History of Predecessors who supported our growth
by community contribution as the origin.

地域貢献を原点に 成長を支えた 先人たちの歩み

沖縄が本土復帰を果たした1972年。一人の青年が、故郷・伊平屋島の振興のために立ち上がりました。

当時は農業以外にほとんど働き口がなかった島に、青年は土木工事の会社を設立。重機も免許もありませんでしたが、人一倍の情熱と実行力で仕事を取り付け、仲間や島の人たちを集めて公共工事の下請けに従事しました。「故郷に貢献したい」という一心でがむしゃらに働き、信頼を積み重ね、伊平屋島に新たな雇用を生んだのです。

それから半世紀の時が流れ、離島の小さな土木業者は、沖縄を代表する総合建設業へと成長を遂げました。創業から変わらぬ地域貢献への思いと『誠心誠意』の精神を貫き、直面する幾多の困難を乗り越えてきました。

先人たちの知恵と努力によって紡がれてきた歴史が、今日の太名嘉組の発展へとつながっているのです。

名嘉建設から太名嘉組へ 誠心誠意を尽くし成長を遂げる

伊平屋島で名嘉建設創業

1972(昭和47)年、太名嘉組の前身である名嘉建設は、沖縄県最北の離島・伊平屋島でその第一歩を踏み出した。

沖縄はまさに復帰元年。本土との格差是正のためのさまざまな振興開発計画が推進され、多額の資金が離島地域にも流れ始めていた。さらには3年後に海洋博開幕を控え、沖縄の建設業界は活況を呈していた。

伊平屋村の島尻地区で生まれ育った創業者・名嘉謙は当時27歳。島に農業以外で若者を雇用できる仕事をつくりたいと一念発起し、出稼ぎ先の兵庫県から帰郷。地元の建設会社で下積みを積んだ後、仲間らと土木工事の会社を立ち上げた。重機も建設業許可もなかったが、地元の人たちを集めて、沖縄本島の建設会社が受注した公共工事の下請けとして日夜働いた。これが名嘉建設の始まりだ。



1979(昭和54)年、旧野甫大橋が完成(『伊平屋村・分村50年のあゆみ』より)

創業当時、主に請け負っていたのは伊平屋村の港湾整備や土地改良関連の工事だった。中でも大きな案件となった旧野甫大橋の下請け現場は潮の干満に左右される海中での基礎工事だったが、工期短縮を図るために創意工夫を凝らし、流れる汗も厭わず無我夢中で働いた。天候の影響を受け

やすい土地改良工事においても、晴天時を狙って24時間体制で重機を稼働させ、工期遵守を徹底した。

こうして元請け業者からの信頼を積み重ねた名嘉建設は、1976(昭和51)年に伊平屋村で第一号となる一般建設業許可を取得。一般建設業登録後は沖縄県関係の工事が増え、一社単独での受注も多くなっていった。自社に技術者がいなかったため那覇から技術者を迎えるなど、社外から力を借りながら技術の研鑽に努めた。

創業当時のモットーは、「一人の知恵より多くの知恵」を結集し、時間と努力を惜しまないこと。そしてやるからには「誠心誠意」。これは社是でもあるが、誠実に真心込めて仕事をするのが良い結果に繋がるということ、創業者である名嘉謙は身をもって感じていた。



1982(昭和57)年
伊平屋村の田名地区
道路改良工事生コン
打設の様子

満を持しての浦添移転

創業メンバーの骨身を惜しまぬ努力の甲斐あって、名嘉建設は沖縄県の格付けでAランク(完成工事高約5億円)に入るまでに業績を伸ばしていった。本島での入札も増える中、伊平屋島においては技術者を雇用できず、更なる発展が望めないというジレンマも抱えていた。

創業10年目にあたる1982(昭和57)年、創業者の名嘉謙は浦添市に拠点を移すことを決意。社員たちを伊平屋島に残し、たった一人大海原へと漕ぎ出した。その大きな志を込めて、社名を株式会社大名嘉組(代表取締役

社長 名嘉謙、資本金2,000万円)と改めた。翌年には伊平屋島に株式会社伊葉開発を設立し、並行して島内の工事受注も進めていった。



伊平屋支店

1983(昭和58)年6月に一般社団法人沖縄県建設業協会、9月には浦添商工会議所に加入。新たな船出を切った大名嘉組だったが、競合ひしめく本島で離島から出てきたばかりの弱小企業を相手にしてくれる会社などほとんどなかった。初めは仕事がなく、県内大手建設会社の下請けとしてやっと受注したのが那覇空港用地造成工事だった。

名嘉は昼夜を問わず営業に奔走した。下請けから始まり少しずつ元請け工事が入りだし、移転2年目には自治体の公園や区画整理、上下水道工事のほか、民間企業の社屋増築工事、個人住宅の新築工事などを受注した。そして1986(昭和61)年11月と1988(昭和63)年3月に相次いで着工したのが、瑞慶山ダム仮排水路工事と与那原法務局出張所建築工事だった。いずれも発注元は沖縄総合事務局であり、初めて国の出先機関から受注した大きな工事だった。

1988(昭和63)年には資本金を4,900万円に増資し、10月1日より名嘉の故郷である伊平屋村役場庁舎建築工事に着工した。この工事は共同企業体による受注で、翌年3月に落成した。

会社の成長と建築部門の強化

日本中がバブル景気に沸いた1980年代後半から1990年代初頭、大名嘉組は公共土木工事を主軸に、順調に業績を伸ばしていた。1990(平成2)年、

株式会社太名嘉組に改称した際の完工高は20億6,000万円、従業員は36名。沖縄県の格付けにおいても1991(平成3)年度に土木部門で特Aランクに昇格し、1992(平成4)年6月には資本金を1億円に増資するに至った。1993(平成5)年度の沖縄県の格付けでは、建築部門も特Aランクに昇格。浦添移転からおよそ10年間での大躍進のもとには、20年、30年先の未来を見据えた経営判断があった。

創業以来、土木工事を経営の柱としてきた太名嘉組にとって、建築部門は新規参入分野であり、建築実績をもった人材を確保する必要があった。リスクを伴う挑戦ではあったが、名嘉謙は「例え公共土木の事業が減少しても建築工事ができれば民間事業で経営していける」と考えていた。そして「土木工事で利益が出ているからこそ、今やらなければならない」と周囲を説得し、建築部門の強化に舵を切ったのだった。以来太名嘉組は、公共工事に頼らずマンション・アパート・住宅などの建築工事で業績を伸ばしていったのである。

1982(昭和57)年の浦添移転当初から続く建築部では、1995(平成7)年から毎年、新卒社員を採用して技術者を一から育てている。「やると決めたらやる」という強い信念と、長いスパンで続ける根気。総合建設業・太名嘉組はその賜物だと言える。



浦添移転後、港湾工事などで活躍していた作業船

米軍部の設立

沖縄県には全国の米軍専用施設面積の約7割が集中している。米軍基地工事は大型案件が多いため受注相当額の履行保証(ボンド)が壁となり、

県内の米軍工事のおよそ8割を県外業者が受注しているのが現状だった。そんな中、太名嘉組は県内企業の中でも積極的に米軍工事へ参入し、着実に実績を積んできた。しかしその道のりは決して平坦ではなかった。

米軍工事の取り組みは1985(昭和60)年頃から、米軍工事入札実績のある人材を2名採用し、一般競争入札や本土企業の下請けを行うようになったのが始まりだ。米軍工事においては契約事務手続きから現場での調整まで、ネイティブレベルの英語力が求められる。当時の県内企業の中には、英語力が乏しく発注者の意図を正しく理解できないまま契約に至るケースもあり、本格参入については社内での反発もあった。しかし名嘉は「市場があるのにできないというのは考え方が足りない」のだと強硬姿勢を貫いた。これは建築部門の強化と同様、いずれは公共事業への投資が減少していくとの先読みがあったからで、一度決めた目標には断固たる決意で臨んでいった。

1997(平成9)年、嘉手納空港事務所発注の IDIQ嘉手納セイバー設計施工業務(5年契約)を受注し、嘉手納基地内に米軍作業所を設けて運営をスタートさせた。2002(平成14)年には嘉手納セイバー業務の更新入札があったが受注ができず、嘉手納基地より事務所を撤去することに。その際、名嘉は「やるからには皆で知恵を出し合おう」と社員に伝え、本社に米軍部を立ち上げ体制の見直しを図った。海外から米軍工事の実績がありネイティブな英語を話せる人材を約10名採用し、宿舍を設けて受け入れ、太名嘉組の仕組みについての教育を行いながら新たに米軍部として再スタートを切ったのだった。

この経験で培ったノウハウとグローバル人材の登用・育成は、現在も競合他社にはない太名嘉組の強みになっている。



これまで以上の品質を提供し、予定工期より早く完了したことで米軍より表彰された

県内トップ企業への飛躍と未来を見据えた新しいチャレンジ

人材育成と働き方改革

企業にとって最も大切なのは「人」である——創業者で現会長の名嘉謙は常に口にする。そして、企業は社長や役員のものではなく社員のものであり、社員一人ひとりが「自分たちの手で夢と幸せを求めて働く場」とであると。だからこそ、利益が出れば還元し、約束したことは必ず実行する。何よりも社員を大切にしてきたことが一人ひとりの成長につながり、会社を成長させてきた。

会社の規模が大きくなるに従い、人材教育にはますます力を入れて取り組むようになった。県内外の現場視察や講演会への参加、外部講師を自社に招いての講演会開催など、見て・聞いて・学ぶ機会を多く取り入れた。また、大型工事を通して本土ゼネコンとの繋がりも生まれ、社員を出向させることで技術力の向上や安全管理面での意識向上を図った。

2000(平成12)年には品質マネジメントシステム規格「ISO9001」を取得。

労働環境改善を図るため4週8休を導入するとともに、安全管理室を設けて工事現場の安全衛生の改善を図った。事務所の整理整頓、水洗トイレの設置、冷暖房機器の導入、熱中症対策、安全確認パトロールの強化などを徹底し、働く人の安全と健康を守るための施策を行ってきた。



ISO取得に関連した会議風景

また、2013(平成25)年には「環境マネジメントシステム規格 ISO14001」認証を取得。後述の汚染土壌処理事業をはじめ、環境保全に関する取り組みを強化している。

さらに2018(平成30)年12月、太名嘉組は経済産業省より「地域未来牽引

企業」に選定された。これは、今後も多様な人材育成の模範となり、地域経済をリードしていくことを期待されての選出だ。当社では外国人技術者の雇用に関わらず、定年退職者の65歳までの再雇用など、社員の意思を尊重した多種多様な雇用形態や働き方制度の導入を進めている。働き方とライフスタイルが一致せず、実績と経験を積んだ社員が去ることは企業にとって大きな損失に他ならない。雇用を広げることで必要な人材を守り、新たな人材確保にもつなげていきたいと考えている。

幾多の苦境を乗り越え、次の世代へ

2001(平成13)年に完工高50億を突破し、太名嘉組は県内建設業界でトップクラスに入るまでに成長を遂げた。しかし、その当時の政府は、歳出の削減による財政改革を進めていた。結果として公共事業の急激な削減が建設業界を直撃し、雇用を支えられず多くの企業が倒産に追い込まれた。更には2008(平成20)年、世界的な金融危機を引き起こしたリーマン・ブラザーズの経営破綻。太名嘉組にとっても試練は続いたが、後発の事業であった民間工事や米軍工事を支えに難局を乗り越えてきた。

公共工事としては、浦添市てだこホール(2006年)、沖縄IT津梁パーク中核機能支援施設(2010年)、那覇港湾・空港整備(2014年)など、県民の生活を支え後世に遺る建築物を多数手掛け、発注機関から多くの感謝状や表彰を贈られている。2016(平成28)年に竣工した沖縄空手会館新築工事(JV)においては、翌年に優良建設業者(建築部門)として県知事表彰を受賞した。



多くの人に利用されている浦添市てだこホール



同年の9月1日、創業者・名嘉謙は社長の座を名嘉太助に譲り、自身は代表取締役会長に就任した。取締役副社長に名嘉弘之、専務取締役に伊禮敏郎と安谷屋恵三、常務取締役に名嘉優が就任し、新体制が発足。名嘉太助新社長は、経営基盤である土木・建築・米軍工事の更なる強化に加え、汚染土壌処理改良技術の研究開発にも取り組むことを表明した。

環境分野への挑戦と地域貢献

2011(平成23)年、沖縄県の「微生物等を活用した汚染土壌における補助事業」に応募し、約1億2千万円の補助金を受け、研究開発ができる5社のうち1社に採択された。4社構成(調査分析:沖縄環境調査(株)、研究:(株)EM研究機構、企画施工:福山商事(株))で取り組み、太名嘉組は統括運営を担って3年間研究開発を行った。

汚染土壌処理の経験は皆無に等しく、各社の専門知識を活かしながら「EM資材を用いたバイオレメディエーション土壌処理工法」の開発に成功。事業終了後は開発した工法を活かすため、専門の技術者を採用し、汚染土壌処理事業課を設立して本格的な運用に取り組むようになった。

県内では汚染土壌の案件が少ないのが現状だ。そのため事業課ではPFOS汚染の土壌と水処理、米軍のごみ処理など、他の環境分野にも手を広げ、近く環境事業部に昇格できるよう取り組んでいる。

2022(令和4)年、太名嘉組は創立50周年を迎える。世界中が新型コロナウイルスの猛威に直面する中、感染予防対策の一つとして取り入れたテレワークやオンライン会議の実施は、当社の新しい働き方として定着しつつある。また、ICT施工の普及やプレキャスト工法にも積極的に取り組み、効率的かつ高品質なパフォーマンスでお客様のご要望にお応えできるよう努めている。

伊平屋島のためにと始めた小さな建設会社は、島を飛び出し、沖縄を牽引する企業へと成長した。目標に向かってただひたむきに汗を流してきた創業者・名嘉謙の情熱は次世代へと引き継がれ、今、「沖縄の未来をつくる」という大きな夢に膨らんでいる。沖縄の恵まれた自然環境を守りながら、後世に遺る建築物を建て、豊かな地域社会を創造する一。太名嘉組は100年先を見据え、社員一丸となって夢の実現に向け取り組んでいる。

太名嘉組

50年の軌跡

1972→2022

本土復帰の年に伊平屋島で創業した当社は、
地域に密着した総合建設業として
多くの人々に支えられながら実績を積み重ねてきた。
沖縄県の発展とともに歩んだ半世紀の歴史を振り返っていく。



1979(昭和54)年頃の住宅新築工事の様子

TOPIC
2

一般建設業の許可(般一51)
第3160号を取得
●1976.5

EPISODE [エピソード]

伊平屋島の魅力と当時の暮らし

沖縄県最北端の離島・伊平屋島は、県内有数の米どころとしても知られる農業と水産業の島。豊作大漁を祈願する伝統行事が今も大切に受け継がれている。1970(昭和45)年当時、伊平屋村の人口は2,200人余り。1979(昭和54)年の野甫大橋開通、1980(昭和55)年のフェリー伊平屋就航開始など、本土復帰後インフラ整備が進み、生活が豊かになっていった。



(沖縄県公文書館所蔵)

▶1972年 ▶1973年 ▶1974年 ▶1975年 ▶1976年 ▶1977年 ▶1978年 ▶1979年 ▶1980年 ▶1981年

【社会一般のできごと】

1972-1981

昭和47年ー昭和56年

- 1972 沖縄県本土復帰(5.15)
- 1972 沖縄県開発公社設立(12.1)
- 1973 石油危機、ガソリン・プロパン値上げ(12.1)
- 1974 大宜味村喜如嘉の芭蕉布、重要無形文化財に指定(3.29)
- 1975 海洋博開幕(7.20)
- 1976 ロッキード事件発覚(2.4)
- 1977 沖縄戦終結33回忌、戦没者追悼式が各地で行われる(6.23)
- 1978 道路交通方法変更実施(ナナサンマル)(7.30)
- 1979 130人乗りのジェット機、那覇ー石垣間で就航(5.14)
- 1980 南風原、北谷、勝連、金武の4村が町制に移行(4.1)
- 1981 国頭村与那で発見された新種の野鳥「ヤンバルクイナ」と命名(11.14)

TOPIC
1

名嘉建設を創業

●1972.1

伊平屋島で生まれ育った名嘉謙は、27歳で出稼ぎ先の兵庫県から帰郷。若い男性は出稼ぎで島を離れるのが当たり前だった時代に、島に若者を雇用できる会社を創ろうと一念発起し、名嘉建設を立ち上げた。
創業当初は沖縄本島の建設会社の下請けとして、漁港や土地改良関連の工事などを請け負った。作業は手作業が中心で、リースで重機を借りるときには早朝から深夜まで、とにかくがむしゃらに働いていた。



1970(昭和45)年頃の島尻区初起こし。写真左上が名嘉謙。『島尻のあゆみ 島尻公民館建設記念誌』より



TOPIC
3

名嘉生コン設立
●1977.7



『62年海邦国体』に掲載された広告記事の一部より

COLUMN

コラム

沖縄本土復帰

1972(昭和47)年5月15日、戦後27年続いた米軍統治が終わり、沖縄はついに日本復帰を果たすこととなった。日本復帰に伴い、米ドルから円への通貨切り替え、道路交通の切り替えなどが行われ、祖国復帰を記念したイベントが次々と開催された。



沖縄復帰記念式典(沖縄県公文書館所蔵)

1982 【昭和57年】
1991 【平成3年】

浦添市へ移転

●1982.12

会社のさらなる発展を志して浦添に拠点を移し、株式会社へ組織変更。建設業登録申請に伴い同名登録を回避するため、株式会社大名嘉組に改称した。「大」という字には小さな島から大海原へと漕ぎ出した名嘉謙の壮志を込めた。

TOPIC
4



現在の伊葉開発社屋

TOPIC
5



株式会社伊葉開発設立

●1983.10

浦添市に進出した翌年の10月26日、伊平屋島に子会社・株式会社伊葉開発を設立し、名嘉謙以外の社員が島内の工事受注業務にあたった。その後、1997年7月1日に現在の伊平屋村字島尻1982番地24に移転。資本金2,100万円。

EPISODE [エピソード]

1988.10 伊平屋村役場庁舎 新築工事

伊平屋村と伊是名村が分村してから50年の節目を迎えた1988（昭和63）年。「快適で豊かな生産活動ができる村づくり」を目指した50周年記念事業として、行政の効率化と地域住民福祉の向上を図るための役場新庁舎建設がスタートした。

バブル全盛期で人手や資材の確保に難航したうえ、当時は宿泊施設やインフラ設備が十分ではなく苦労の連続だったが、翌年無事に落成。庁舎は現在も村民の生活を支える拠点施設として親しまれている。

▶1982年

▶1983年

▶1984年

▶1985年

▶1986年

▶1987年

▶1988年

▶1989年

▶1990年

▶1991年

【社会一般のできごと】

1982-1991

昭和57年～平成3年

- 1982 県都市モノレールの運営会社、第3セクター方式で設立(9.22)
- 1983 OPECが結成以来初めて原油価格の値下げを決議(3.14)
- 1983 宜名真トンネルが完成、供用を開始(3.18)
- 1984 世界初の衛星放送開始(5.12)
- 1985 男女雇用機会均等法が成立(5.17)
- 1985 第1回NAHAMARASONが開催(12.8)
- 1986 県の新庁舎起工式(8.22)
- 1987 海邦国体夏季大会開幕(9.20)
- 1988 世界最長の青函トンネルが開通(3.13)
- 1989 消費税3%実施(4.1)
- 1990 東西ドイツ統一(10.3)
- 1991 県内初の再開発ビル「パレットくもじ」営業開始(4.19)



TOPIC
6

本社事務所の移転

●1984.11

11月30日、名嘉謙の住居1階にあった事務所を新しい社屋に移転。1993年11月29日、住居表示実施により住所が浦添市大平2丁目1番1号に変更された。



1985(昭和60)年頃の名嘉謙と、当時の社屋

TOPIC
7

伊平屋村役場庁舎 新築工事建設着工

●1988.10

10月1日、伊平屋村我喜屋251番地にて役場庁舎建築工事（発注者：伊平屋村）が着工。工期は1989年3月30日までで、請負金額16,020万円（税別）だった。



伊平屋村役場庁舎

TOPIC
9

社名を株式会社太名嘉組に改称

●1990.5

創業者・名嘉謙が知人に会社印の制作を依頼した際、「大」を「太」に変えると画数が良くなると言われたことをきっかけに改称。人を照らし幸せにする「太陽」のような企業を目指し、「太平洋」のような大きな志で前進するという思いが込められ、「太名嘉組」となった。

TOPIC
8

財務会計システムの導入

●1989.7

財務会計処理をIT化したことにより手入力の手間や計算・入力間違いといった人為的ミスが減り、会計業務が大幅に効率化された。また、即時更新される会計データを基に、経営状態をリアルタイムで分析することが可能になった。

TOPIC
10

(株)太名嘉組互助会設立

●1991.5

年々従業員数が増え、会社の規模が拡大するなか、社員の福利厚生・親睦を目的として従業員の互助会を設立。

1992

【平成4年】

2001

【平成13年】

TOPIC

11

**建築部門
県の格付け
特Aランクに**

●1993

現場では安全管理を徹底し施工の質向上に努めた



TOPIC

12

米軍工事を開始

●1997

米軍工事に関しては、1985（昭和60）年頃から土木建築部により一般競争入札や本土企業の下請け業務を行ってきたが、5年契約のIDIQ嘉手納セイバー設計施工業務を受注したことを機に本格参入。嘉手納基地内に作業所を設けて米軍担当部門の運営をスタートさせ、その後米軍部に格上げした。



TOPIC

13

島尻区公民館が落成

●2000.9



『島尻のあゆみ 島尻公民館建設記念誌』より

地域農産物等活用型総合交流促進施設（島尻区公民館）の建設工事を担当。建築面積958.52㎡の平屋建てに、大ホール、ステージ、会議室、図書室、宿泊研修室、シャワー室等を備えており、現在も地域住民らの交流の場や防災施設として利用されている。

TOPIC

14

**ISO9001（品質）／
ISO14001（環境）
認証取得**

●2000.12／2013.10

当社は品質マネジメントシステムの国際基準を満たした高品質な製品をお客様に提供することで、社会に貢献することを目指している。また、環境マネジメントシステムの国際基準を満たす環境と調和した建築・土木構造物を創造し、沖縄の未来を築くことを方針に掲げている。



▶1992年

▶1993年

▶1994年

▶1995年

▶1996年

▶1997年

▶1998年

▶1999年

▶2000年

▶2001年

【社会一般のできごと】

1992-2001

平成4年～平成13年

- 1992 47年ぶりに復元された首里城公園が開園(11.3)
- 1993 ランドマークタワー完成(7.14)
- 1994 関西国際空港(アジアのハブ空港を目指した初の24時間空港)開港(9.4)
- 1995 世界貿易機関(WTO)が発足(1.1)
- 1995 沖縄県公文書館オープン(8.1)
- 1996 政府、沖縄振興策で特別調整費50億円計上(9.10)
- 1997 消費税3%から5%に引き上げられる(4.1)
- 1998 観光収入4,000億円突破
- 1999 漫湖がラムサール条約に登録(5.15)
- 2000 九州・沖縄サミット開幕(7.21)
- 2001 米中枢同時多発テロ発生(9.11)



2000(平成12)～2001(平成13)年にかけて施工を担当した伊平屋漁港

TOPIC

15

完成工事高 50億円へ

●2001

TOPIC

16

**沖縄都市モノレール
久茂地地区下部工
(P254～259)工事が
表彰を受ける**

●2001.7

通行量が多い国道58号・久茂地交差点付近においてモノレール橋脚の施工を実施。大規模な仮設工事を伴う河川沿いでの難工事だったが、出来栄や創意工夫、地域とのコミュニケーション等が評価され、沖縄総合事務局南部国道事務所から優良施工業者表彰を受けた。



EPISODE [エピソード]

**特Aランク取得までの
苦労と道のり**

浦添市移転後に受注した浦添市土地区画事業の工事では、住民の激しい反対運動に合い警察が見守るなか完成に至った。建築工事では厳しい価格競争を強いられ、受注後も工事代金回収に苦労させられた。こうした幾多の苦難を乗り越えて、1991(平成3)年に土木部門が、1993(平成5)年に建築部門が、沖縄県の格付けで特Aに昇格を果たした。

2002 2011

〔平成14年〕
〔平成23年〕

TOPIC 17 米軍部でフィリピン国籍の技術者を採用

●2005

2002年に創設した米軍部の組織体制を強化。米軍工事関連業務の実績があり、ネイティブな英語を話せる人材をフィリピンより10人採用した。宿舎を用意し、会社組織や業務についての研修を行いながらのスタートとなった。

TOPIC 18 てだこ交流文化センター 建設工事

●2007.4

浦添市民会館の老朽化に伴う建て替え工事に着工。2007年4月28日、「浦添市てだこホール」が開館した。舞台公演を行う大小ホールや市民交流室、マルチメディア学習室など、文化・芸能活動の拠点として親しまれている。



全国建設業労働災害防止大会で優良賞を受賞。写真は竣工当時のもの

TOPIC 19 米軍関係工事のカテナMACCに初選定

●2007

嘉手納空港事務所発注のセイバー設計施工業務は、5年毎の更新入札（1社設計施工）から複数年・複数社で競争入札するIDIQ、MACC（5年125億円）に契約形態が変更。その5社のメンバーに選定された。米軍部を中心に、土木部や建築部の支援体制を整え、対応している。

EPISODE [エピソード]

2004.11 第10回伊平屋ムーンライトマラソン



楽しく走り抜ける名嘉会長と太名嘉組の職員たち

毎年10月、満月に近い土曜日の夕暮れから夜にかけて、月や星が輝く夜空を眺めながら伊平屋島を走り抜ける幻想的なイベント。前夜祭は島の伝統芸能や組踊り、後夜祭はミュージシャンによるミニライブ等で県内外からの参加者を楽しませてくれる。太名嘉組では、毎年社長や社員が参加する恒例行事となっている。

▶2002年

▶2003年

▶2004年

▶2005年

▶2006年

▶2007年

▶2008年

▶2009年

▶2010年

▶2011年

【社会一般のできごと】

2002-2011

平成14年—平成23年

- 2002 本部町の国営沖縄記念公園内に沖縄美ら海水族館がオープン(11.1)
- 2003 沖縄都市モノレール「ゆいレール」が開業(8.10)
- 2004 国立劇場おきなわ開場(1.18)
- 2005 沖縄戦終結60周年。県主催の「沖縄全戦没者追悼式」が平和祈念公園で行われる。(6.23)
- 2006 ゆいレール利用者、3千万人を突破(1.30)
- 2007 沖縄県立博物館・美術館が那覇市おもろまちに開館(11.1)
- 2008 北京オリンピック開催(8.8)
- 2009 裁判員制度施行(5.21)
- 2010 琉球王国時代の国劇「組踊」が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産代表リストに登録された。(11.16)
- 2011 東北大地震が発生、死者・不明者約2万人。(3.11)

TOPIC 20 資格取得に向けた社内研修を開始

●2008.1

人材育成や社員教育は、会社の将来を担う重要な課題である。太名嘉組はこれを経営方針に掲げ、総合建設業の社員、土木・建築技術者を目指す者として必要な資格取得を推進することを決定。若手社員や新卒採用社員を対象に、建設業に関わる技術資格取得に向けた社内研修を開始した。

TOPIC 21 名嘉謙社長が沖縄県建設業協会 浦添・西原支部の支部長に就任

●2008.4

太名嘉組の（一社）沖縄県建設業協会への加入は1983（昭和58）年6月に遡る。名嘉謙は浦添・西原支部支部長就任の翌月には理事に選任され、入札契約制度の改善、人材確保・育成、雇用改善、防災・減災活動、建設事業の掘り起こし等に取り組んできた。

TOPIC 22

表彰を受ける
厚生労働省労働基準局長より

●2010.8

（仮称）グランドパレス名護新築工事において、建設事業無災害表彰を受賞した。敷地面積の小さい15階建て高層建築工事において、事業者数25社、延べ作業員人数1万4,982人を動員し完工。11万9,856時間無災害を達成したことが評価された。



（仮称）グランドパレス名護新築工事での功績が評価された

EPISODE [エピソード]

公共工事受注増加の背景

当社は、策定した経営計画を全社員に明確に示し、目標達成状況の管理を行うことで業績を伸ばしてきた。国・県発注の総合評価方式入札では技術面・価格面で優れた企業が落札できる。そのため早くから、安全管理を含めた技術力の向上、工事評価値を意識した目標設定、入札資料作成での技術提案力の向上、積算力の向上に取り組んできた。また、営業戦略として、本土企業との共同企業体をより多く結成することで、毎年の目標受注額を達成している。

2012 〔平成24年〕 2016 〔平成28年〕

TOPIC
23

伊平屋生コン工場を 太名嘉組へ統合

●2012.1

現在の生コン工場



TOPIC
24

名嘉謙社長、 (社)沖縄県 建設業協会の 副会長に就任

●2012.5

2008(平成20)年5月の理事就任から4年後、名嘉謙は太名嘉組を県内有数の企業に育て上げた手腕を評価され、会員各社からの要請を受ける形で沖縄県建設業協会副会長に就任。以降、沖縄県建設業の発展に尽力し、2014(平成26)年には(一社)全国建設業協会より表彰を受けた。

TOPIC
25

名嘉謙社長、 (一社)全日本漁業建設協会より 特別功労者表彰を受賞

●2014.5

これまで県内多数の漁港の整備に携わり、漁港建設業界の発展に貢献してきたことが評価され、同協会のビジョンである「活力ある漁業・漁村の形成」に尽力した特別功労者として表彰を受けた。



特別功労者表彰の
表彰状



TOPIC
28

名嘉太助新社長が就任

●2016.9

創業者・名嘉謙は社長の座を名嘉太助に譲り、代表取締役会長に就任。新体制発足にあたり新社長は、土木建築工事の更なる強化に加え、汚染土壌改良技術の研究開発にも力を入れる方針を表明した。

▶2012年

▶2013年

▶2014年

▶2015年

▶2016年

【社会一般のできごと】

2012-2016

平成24年ー平成28年

- 2012 東京スカイツリーが開業(5.22)
- 2012 沖縄科学技術大学院大学(OIST)開学。世界18か国と地域より34名の学生が入学(9.1)
- 2013 新石垣空港開港(3.7)
- 2013 消費税5%から8%に引き上げ(4.1)
- 2014 富士山が世界遺産に登録(6.22)
- 2014 沖縄県知事選、前那覇市長の翁長雄志氏が初当選(11.16)
- 2014 伊良部島と宮古島を結ぶ伊良部大橋開通(1.31)
- 2015 マイナンバー制度施行※翌年1月1日から開始(10.5)
- 2015 沖縄県、15年度の観光入域客数が776万3,000人と発表、過去最高記録となる。(1.21)
- 2016 北海道新幹線開業(3.26)

TOPIC
26

中城湾港土砂処分場二護岸外 2件築造 工事で内閣府沖縄総合事務局長受賞

●2014.7

中城湾港土砂処分場の護岸築造に際しては、周辺海域に貴重な生き物が生息していることが確認された。生態系への影響を最小限に抑えるため、石材撤去・投入等による濁り拡散防止対策を施し工事を行った。



TOPIC
27

米軍工事 現場管理ソフト 「プリマベアラ」導入

●2015.11

米軍工事では一般的にMS現場管理ソフトが使用されていたが、陸軍発注の大型工事に関しては、本国で主流の管理ソフト『プリマベアラ』の使用が義務付けられるようになった。当社単独でMATOC(複数者個別発注契約)入札権を取得し工事を受注した際に『プリマベアラ』を導入し、現在も活用している。

EPISODE [エピソード]

汚染土壌の改良研究



2011(平成23)年、沖縄県の「微生物等を活用した汚染土壌における補助事業」に採択され、汚染土壌処理事業課を発足。当社が統括を担い、調査分析・研究開発・施工を他社が担当する4社構成で3カ年事業を実施した。その後、バイオレメディエーション土壌処理、PFOS汚染の土壌と水処理、米軍のごみ処理等、環境分野に事業を展開している。

2017 2022

【平成29年】
【令和4年】

TOPIC 29 社員・家族の予防接種助成金制度新設 ● 2017.1

社員および家族がインフルエンザ等の予防接種を受ける際の助成金制度を新設。他に、定期健康診断や保健師による健康相談、ストレスチェック等、社員の健康をサポートする福利厚生制度を拡充している。

TOPIC 30 防衛省より表彰を受ける

● 2018.7

牧補（H28）警衛所等（国道58号線沿）新設土木工事が評価され、防衛省施設監表彰を受賞した。狭隘箇所での施工という難しいプロジェクトだったが、工事全般にわたり高い安全性を確保し、品質・出来栄を重視しながら無事故・無災害で工期内に完工することができた。

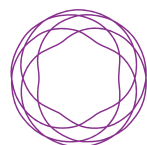


表彰式での集合写真



TOPIC 31 地域未来牽引企業に選定 ● 2018.12

当社が取り組む人材教育やグローバル技術者の雇用拡大、土壌汚染対策をはじめとする環境事業等が、地域経済や事業者への影響力を持つと評価され、経済産業省より選定された。



地域未来牽引企業



TOPIC 32 名嘉謙会長 黄綬褒章を受章 ● 2019.11

名嘉謙会長が2019（令和元）年度秋の褒章で黄綬褒章を授与された。太名嘉組を県内トップ企業に育て上げた指導力と、業界団体の理事や役員として県内建設業界の地位向上と発展に貢献した功績が高く評価され、受章となった。

▶ 2017年

▶ 2018年

▶ 2019年

▶ 2020年

▶ 2021年

▶ 2022年

【社会一般のできごと】

2017-2022

平成29年ー令和4年

- 2017 ドナルド・トランプ氏が第45代アメリカ合衆国大統領当選（1.6）
- 2018 働き方改革関連法成立（6.29）
- 2018 翁長雄志知事死去（8.8）
- 2018 テニスの大坂なおみ選手が全米オープン優勝（9.8）
- 2018 沖縄県知事選で玉城デニー氏が当選（9.30）
- 2018 「宮古島のバントウ」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録決定（11.29）
- 2019 新天皇陛下が即位、元号を「令和」へ改元（5.1）
- 2019 沖縄都市モノレール「ゆいレール」が浦添延長区間での営業開始（10.1）
- 2020 原因不明の肺炎の原因が新種のコロナウイルスと判明。以降、世界的なパンデミックとなる（1.7）

EPISODE [エピソード]

伊平屋製糖工場の建設



伊平屋製糖工場落成記念式典の様子

離島での工事は本島内とは事情が異なり、困難も多い。作業員の宿泊施設の確保と食事の提供においては、民宿関係者の方々に多大なるご協力をいただいた。また、台風で数日間船が出航できない思いがけない出来事もあったが、着工（2019年1月8日）から完工（2020年7月31日）まで無事故無災害で引き渡し出来たのは、島民の皆様の応援があったからだ感謝の念に堪えない。

TOPIC 33 水産庁長官賞を受賞 ● 2020

当社は伊平屋漁港工事に携わって以来、多くの漁港漁場関係の工事を手掛けてきた。水産工学技士などの技術者育成やISO取得等を推進し、品質確保に取り組みながら県内漁港整備に尽力したことが評価された。



農林水産部長室へ受賞報告

TOPIC 34 女性活躍推進行動計画策定WG設置

● 2021.7

2015（平成27）年に成立した「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」の規定に基づき、当社で働く女性社員の個性と能力を十分に発揮できる職場環境づくりに取り組んでいる。

TOPIC 35

太名嘉組50周年

● 2022

株式会社太名嘉組は2022年、創業50周年を迎える。この先も100年・150年企業を目指し邁進していく。

To The Future

代表取締役 名嘉太助 社長インタビュー

太名嘉組の明日へ

創業以来、「誠心誠意」をモットーに、
地域に貢献する沖縄の総合建設会社として
堅実に実績を重ね今日まで邁進してきた太名嘉組。
その原動力ともいえる「未来を見つめる目」を持つ名嘉社長に
沖縄から世界へ、夢をカタチにする
「これからの太名嘉組」についてお聞きしました。

代表取締役社長
名嘉 太助

1968(昭和43)年生まれ。
2004(平成16)年、株式会社
太名嘉組入社。取締役を
経て、2016(平成28)年
より現職。

会社の成長はもちろんのこと、 社員を幸せにすることが私の仕事

— 創業50周年を迎えられた今のお気持ちを
お聞かせください。

まずは創業以来、我が社を支えてくださった
関係各社の皆様、そして地域の皆様に心より感謝
申し上げたいと思います。また、ここまで一緒に歩ん
でくださった先輩方そして社員の皆様にも感謝の
気持ちを伝えたいと思っています。その上で、企業
が50年、事業を継続するということがどれほど
大変なことなのか、改めて考える機会になりました。

我が社は1972年に名嘉建設として、私の父で
ある名嘉謙が伊平屋島で創業しました。そして、
45周年の時に私が2代目社長として事業を継承
しましたが、その際一番に考えたことは、父がこれ
まで築いてきたこの会社を自分がどう成長させ、発展
させることができるか、ということでした。そのことは
社長になって6年目の今、更に強く思うようになり、
日々考えずにはられません。

特に未曾有のコロナ禍社会において私たちの
日常がこれまでとはすっかり様変わりしてしま
いました。同時に、企業が社会で担う役割や課題も
大きく変化しています。そのような中において、時代
のニーズに誠実、且つ的確に応えることが建設業
に携わる我が社の社会的責任であると考えています。

— 名嘉社長が経営者として最も大切にして
いることはどのようなことでしょうか。

それは「社員がこの会社勤めていて本当に満足
しているか」ということです。会社の成長はもちろ
んですが、社員を幸せにすることこそ私の重要な仕事
だと思っています。そのことを社員にしっかり伝え、
同じ目標に向かってベクトルを合わせることで、その
ための仕組みを作ることも私の大切な役目だと思
っています。

たとえば、私は社長に就任した時に「毎年10
パーセントずつ成長する」という目標を立てました。
それを2年目から達成し、5年後には売上高150
億円を達成することを目標にしています。しかし
これは私一人の力で達成できるものではなく、
もちろん経営陣だけで取り組むことでもありま
せん。会社の成果は社員全員で出すものだから
こそ、意味があるのです。そのためには社員との
コミュニケーションをしっかりと、この会社を
もっと成長させるために必要なことは何かを何度も
話し合ってきました。

なかでも特に力を入れてきたのは、働き方改革
です。昔も今も、私たちの業界は常に人材不足が課題
となっています。また、働く環境もこれまでは3Kと
言われて若い社員がついてこられずに辞めて
しまう、離職率が3〜5割というのも当たり前だった
業界です。それを徹底的に変えていきましょう、とい
うのが我々のチャレンジです。そして業績を上げる
ことで給料のベースアップを約束し、仕事のモチ
ベーションに繋がりました。

—「働き方改革」を実行することは決して簡単なことではなかったのではないですか。

その通りです。働き方改革＝労働生産性の向上ですから、なかには「働く時間や人数を減らすと逆に現場が忙しくなる」と、反対する声もありました。それでも徹底的に残業ゼロを目指して効率化を図り、実現できない部署にはとことん現場に話をする。できないならできるようになるためにはどうすればいいのか、業務をもっと簡素化し、効率化するにはどうすればいいのか、次第に現場で社員一人ひとりが自ら考えるようになりました。

— 創業者である会長から受け継いだことや大切にしたいことは。

一番は「誠心誠意」を貫く、経営者としての姿勢です。普段から温厚で気さくな性格の会長は社員の顔を見ては「元気か」と声をかけ、みんなとコミュニケーションをとっています。そんな会長は現場でアクシデントがあれば真っ先に駆けつけ、誰よりも頭を下げる。そして、ミスをした社員を責めるよりも「次にこの失敗をどう活かすか」を一緒になって考える。お客様に対しても、社員に対してもこうした会長の誠実さが信頼関係をより強固なものにしていると思います。

「会社は社員全員のものだ。決して経営者のものではないことを忘れるな」。これは会長がよく口にする言葉です。そして「経営者だけで物事を決めずに、社員からも意見を聞いて決めなさい」とも。会長から学んだことは今の私の社長としての在り方に繋がっています。

時代のニーズに誠実、且つ的確に応え、顧客に新しい価値を提案

—これから会社の柱となる新事業についてお聞かせください。

現在、当社の柱は土木部、建築部、米軍部の3部門です。今後はこれに加えて新たに二つの分野の事業に本格的に取り組んでいきます。

まず一つ目は、環境部署「土壌汚染処理事業」です。この事業は沖縄県から事業委託され、専門機関と共同で研究開発をスタートして5年になります。研究内容は、重金属や油を中間処理するためのシステムの構築で、わかりやすく言うと汚染された工場跡地などの土壌を改善するというものです。これまでは一度汚染された土地は土壌を取り出して入れ替えるという作業が必要でしたが、このシステムを導入することで大きなコスト削減が可能になりますし、SDGsの観点からも環境に配慮した持続可能なビジネスとしてチャンスが広がります。

また、消化剤に含まれる有害物質“PFOS”の処理にも取り組んでいるところです。PFOSによる水汚染は新聞やニュースでも取り上げられていますが、これは米軍基地や消防施設、船舶などにも積まれているもので、処理するために何千本ものドラム缶に汚染水を入れて本土へ運んでいるのです。当社はこれを県内で処理するために沖縄県で第一号となる中間処理施設を他社と共同で立ち上げる予定です。

—こうした環境分野に取り組むことは企業としてとても意義のあることですね。

まさに、現在、社会問題となっている環境問題解決への取り組みが未来を拓く鍵となります。だから

こそ、世の中の動きをリサーチし、敏感に掴み取ることが重要ですし、それに対応できる人材も必要です。

そして、もう一つの柱となるのは、PC(プレキャスト)を活用した戸建て住宅です。PC住宅はコンクリートの弱点であるひび割れを防止し、大きな荷重に耐えられるという利点がある上、規格化されたPCパネルを使用するため、工期が短く、天候に左右されることも少ないので通常の建築よりもコストを抑えることができます。そのため建築単価が高くなってしまう離島では特に活用が期待できます。

また、地震に強いPCパネルは豪雨や地震被害の多い日本全国の様々な地域やさらには海外でも、木造住宅に代わる新しい住宅建材として大きな可能性を秘めていると思います。

— 100年企業を見据え、名嘉社長が考える太名嘉組の未来とは。

我々を取り巻く社会環境は新型コロナウイルスによる影響はもちろんですが、飛躍的に進化するAIやICT技術の活用、業務の効率化、先に述べた働き方改革など、これまでとは比べ物にならないくらい人々の暮らしは多様化し、価値観も絶えず変化

しています。そのような社会の変遷において、我々は時代のニーズを的確に捉え、様々な角度から顧客に「新しい価値」を提案することこそ未来に繋がると考えています。

ただ、そのためにはこれまで先人たちが築いてきた「技術」と「信頼」を守り、「誠心誠意」顧客に応えていくことも決して忘れてはいけません。

私の役目は事業を良い形で次の後継者の皆さんへバトンタッチすることですから、当社の原点である基本理念のもと、次の世代のために必要なものをいかに構築することができるか、具体的には「人材育成」や「技術改革」「新しいことへの挑戦」といったことをしっかり築いていくことが100年企業へ向けての私の重要な役割だと思っています。そしてそのことをしっかり社員に伝えていくことが大切です。

太名嘉組は大きなファミリーだと思っています。社員の生活の質の向上と幸せ、それぞれの夢や目標の達成が間違いなく会社の成長に繋がりますし、結果としてそれは沖縄や社会に対する貢献に繋がると信じています。

みんなで夢や希望がつまった未来を創っていきましょう。





ABOUT The FUTURE

太名嘉組
中堅×若手社員
座談会

社員が語る太名嘉組の今と未来

若手社員と勤続10年以上の中堅社員が集まった座談会。部署を越えて、自分自身の仕事への思いや太名嘉組の今とこれからについて語り合いました。



営業部
小浜 源太
1995年生まれ、2019年入社。
営業部に所属し、趣味は筋トレ
と野球。

建築部
崎間 陸人
1998年生まれ、2020年入社。
趣味は野球。

建築部
上原 康文
1980年生まれ、2008年入社。
趣味はメタルやパンクなどの
音楽鑑賞、ライブ観戦など。

土木部
嘉手苅 智子
1999年生まれ、2021年入社。
汚染土壌処理事業課所属。

土木部
山城 正之
1976年生まれ、1995年入
社。入社して10年間は伊平
屋島と本島を行ったり来た
り。2020年に副部長就任。趣
味は動画作成、三線、ウクレ
レ、ゴルフ。

米軍部
サムエル しのぶ
1976年生まれ、2011年入
社。風通しのよい部署を目指
し、コミュニケーションの大切
さを感じながら、日々職務につ
いている。

米軍部
パガドル ジェイシー
1992年、フィリピン生まれ。
2020年に入社。土木技師。
座右の銘は、「成功者になろう
とするのではなくむしろ価値の
ある人間になろうとしない」。

総務部
木村 行盛
1997年生まれ、2018年入
社。一番の思い出は、入社1
年目に伊平屋ムーンライトマ
ラソンで幹事を務めたこと。趣
味は、筋トレ、バスケ。

—仕事におけるやりがいや 自分自身の成長

司会 太名嘉組の創業50周年を記念して、若
手・中堅社員の皆さんにお集まりいただき座談
会を開催します。まずは、仕事のやりがいや入社
当時と比べて成長したことについて聞かせてい
ただけますか。

サムエル 私は米軍部に所属しています。英語
を常に使う部署なのですが、工事関係の専門用
語や知識について分からないところは土木部や
建築部の皆さんに教えてもらいながら、仕事を
進めています。社内外問わず、積極的に人と関
わることで英語力や通訳のスキルも上がってき
たと思いますし、これからも躊躇せずに挑戦して
いきたいと思っています。

山城 私は土木部で現場の運営や管理関係を
担当しています。自分が携わった道路や橋といっ
たインフラを、人々が使うようになる様子を目の
当たりにした時にやりがいを感じます。建設業の
おもしろさというのは、そこにありますよね。

上原 私が所属する建築部が担当しているマン
ションや住宅の場合は、更地からスタートして、
最終的にそこに人が住み、街づくりにも繋がって
いく。そういう風にして、自分が関わったというこ
とが目に見えて分かるから楽しいですね。

山城 私が携わった橋や道路が開通したら、家
族にも自慢しています。「この橋の『足』の部分は
自分が作ったんだよ！ほら、今通った、今通っ
た！」って(笑)。

小浜 私は営業部に所属しており、他の業界の
人と知り合う機会が多いので人脈が広がり、と

ても勉強になります。社長や役員から任される
仕事も多く、大きなプレッシャーも感じますが、
仕事がうまくできたことで評価してもらえるとや
りがいを感じますね。

木村 私は総務部に所属しています。今までは
人前で全く喋れないタイプだったのですが、入
社してからはコミュニケーション能力が上がった
と感じます。総務部は全ての部署や社員全員と
関わるので、どんな場面でも誰に対しても、物怖
じや緊張をあまりしなくなりました。

ジェイシー 私の所属する米軍部では、浚渫
(しゅんせつ)や水際での改修工事といった海に
関わる案件があります。自然の現象が関わるの
で、どうしてもスケジュールに遅れが出ることが
あるのですが、その遅れを取り戻すために皆で
意見を出し合い工夫を凝らして、無事に仕事を
やり遂げた時にはとても達成感があります。困難
なことも多いですが、常に挑戦していくことで米軍
からも信頼を得ることができるので、この仕事に
すごくやりがいを感じています。

山城 海の現場というのはとても難しいんです
よ。潮の満ち引きもそうですが、海が荒れてしま
えば船を避難させなければならないため、工事
が進められないこともあります。常に気象状況の
迅速な把握が求められます。

嘉手苅 私は4月に入社したばかりで、現在は
米軍部で有害廃棄物の処理関係を担当してい
ます。将来は、土壌浄化の分野で女性技術者とし
て活躍できるようになりたいと思っています。
今はまだまだ工事についての知識が少なく戦力
と言えないので、早く技術を身につけられるよう
頑張ります。

崎間 私は建築部に所属しています。入社当初
からの目標は、責任を持って現場をまとめられ
ようになることです。入社2年目でまだまだ目標
達成は遠いので、自分自身で立てた小さな目標
を一つずつクリアしていき、資格を取得して立派
な現場所長を務められるようになりたいです。
「崎間に任せればなんでもできる」という存在に
なれたら一番いいなと思いますね。

道路や建物を造ることで、街を活性化していく。 人の暮らしに貢献する重要な仕事



トップの先導力とチームワークが鍵

—太名嘉組の誇れる点、 他社にはない強み

司会 太名嘉組の誇れる点は、どんなところだと思いますか？

崎間 社員数が多く、まだ関わったことのない人もいるのですが、人間関係がすごく良い会社だと思います。

サムエル 女性目線から見ると働きやすい環境だと思います。仕事と家事や子育てにきっちり線を引くことができるのでとても満足しています。福利厚生も充実していて、子育て支援・子ども手当制度が新設されたり、産休・育休をしっかりと取得することができます。何より部署を越えて

女性社員の仲が良いので、仕事がとてもやりやすいです。

木村 社員の頑張りを上司や上の人たちが見てくれていて、労いや何かあった時のフォローなど声をかけてくださるのはとてもありがたいです。

山城 以前までは、残業することが「頑張っている」という評価になっていましたが、今は上司が「忙しくても交代しながらでも必ず休むように」と指示してくれるので、すごく助かっています。部長や役員など立場が上の人たちが社員と同じ目線で関わってくれる雰囲気は誇れる点だと思います。

司会 これだけ会社が伸びていっている要因などについてどう思いますか？もちろん社員全員で頑張っている結果ではあると思いますが。

木村 社長が陣頭指揮をとって、「やるぞ！」という勢いとともに社員を引っ張るからこそ、それぞれの現場でも「頑張ろう！」という雰囲気になるのではないかと思います。

山城 いつも社長の先を読む力に驚かされます。数年前に「何年後はこうなっているから、今からこの仕事に力を入れていこう」と話していたことが、今現実になっています。

小浜 目標金額なども細かく計画的に設定していますし、それを目指して一つの目標へ向かって皆で進んでいるという感覚がありますね。

木村 社長はお忙しい立場なのに、社員とご飯を食べたり声をかけたりと、新入社員までに目をかけてくださっているのを感じます。彼らを伊平屋に連れて行くという案も社長の起案でした。太名嘉組野球部の活動でも、お忙しい中ノックをしに来てくださってます。

サムエル 米軍工事の分野では、米軍の方から「太名嘉組さんにプロジェクトを受注して欲し

い」と言ってくれたことがあり、嬉しかったですね。良い評価を頂けたことで、やってきたことは間違いなかったと思いますし、太名嘉組で働けて良かったと思う瞬間ですね。

山城 発注者から工事の進め方や細かい施工について相談や要望を受けることが多いですが、難しい場面であっても最善の方法を考えたり、どんなことにも真摯に対応するようにしています。

司会 マンションの案件もそうですが、常にいろいろな物件のお仕事をさせてもらっているのは、デベロッパーさんから技術力や信頼という点で認められているからではないかなと思います。

山城 発注者から「太名嘉組さんが受注者でよかった」とお褒めの言葉をいただきましたね。

司会 そうですね。それに伴い優良表彰などを頂いているので、そういった点は他社に劣らない強みと言えるかもしれません。



—10年後、20年後、 太名嘉組の未来への展望

司会 太名嘉組の10年後、20年後はどんな風に変化していると思いますか？

木村 その頃には従業員の数も200、300人と増えているのでしょうか。今の県内トップの会社のような数百名規模の大きな会社を目指したいですね。また、20～60代まで幅広い世代の社員がバランスよく集まって、そこに女性社員が増えたと華があってさらに仕事楽しくなるかもしれないと思います。

嘉手刈 研修で土木の現場を訪れた際、他社の女性の職人さんが男性陣と同じようにはつらつと仕事をしている姿を見てびっくりしました。今よりも現場で働く女性が増えたら、トイレや休憩所などといった現場の環境ももっと整い、さらに働きやすくなるといいですね。

崎間 浦添だけでなく、いろいろな地域に支店があったら、仕事の幅がもっと広がっていいのではないかと思います。

小浜 以前、社長から県外進出を考えているという話を聞いたことがあります。

司会 県外への進出も楽しみですね。米軍部の社員はフィリピンやネパールなど様々な国から集まっていますから、これからは日本だけでなくグローバルに海外支店の展開への動きが出てくるのかなと思います。

サムエル そうですね。現在の米軍部は、次へ飛躍するための地盤を固める時期だと感じて

います。私が入社した当初は米軍の工事関係の案件が主体でしたが、現在は基地内の危険物（ハズマツ）の収集・運搬・処理の作業、それに加えて事務所から出る廃棄物の処理など、工事だけでなく違うジャンルの業務も始まってきています。

司会 汚染土壌処理の分野も、これから一つの部署として一本化するために取り組みを進めていくと思います。これが土木部・建築部・米軍部・汚染土壌処理部という4つの柱になっていくのではないのでしょうか。

嘉手刈 将来、汚染土壌処理部に後輩が沢山増えたらすごく嬉しいですね。

—それぞれの夢や目標、 今後の仕事に対する姿勢

司会 最後に、今後仕事で実現したい夢や挑戦したいことを教えてください。

山城 国土交通省が令和5年度に向けて進めている、公共工事におけるBIM・CIMの原則適用の実現に向け、リーダーとして体制作りをしています。完全実用化に向けて成功させることが、今の一番の目標ですね。また、若手職員の指導育成も充実させていきます。

嘉手刈 私は、土壌浄化部門で大きな案件を任せてもらえるような技術者になりたいと思っています。

木村 私は、経理や財務、会社の内部のことだけでなく、銀行やお客様とのやり取りも任せて



もらえるように頑張っていきたいです。

サムエル 米軍工事部門で常に上位にいる他社さんに少しでも追いつき追い越せるよう、一つひとつ丁寧に仕事をしていくことが大切な事だと思っています。「太名嘉組の米軍工事はいい仕事をしている」と言ってもらえるよう、そして今後米軍部を成長・発展させていき、会社貢献できるように頑張ります。

上原 どんな仕事にも自分のプライド(良い仕事出来る楽しみ)を持つことが私にとって一番大切なことだと感じています。自分自身も会社もともにステップアップしていきたいですね。

ジェイシー 若手として、毎日仕事に取り組みながら勉強しているところですが、今後も自分にとっての大きな課題がたくさん出てくると思います。それを一つずつ乗り越え知識を蓄え、技術力をしっかり高めていくことが今の目標です。

小浜 社長からよく、太名嘉組の夢について話を聞く機会がありますが、その夢を叶えるために私にどんなサポートができるかと考えながら仕事に取り組んでいます。夢を実現するには、社員が一丸となることが大切。私は今年から互助会の会長を務めることになったので、各部署とコミュニケーションをとりながら会社の目標達成に向けて貢献していきたいです。

崎間 私はまだまだ年齢が若いので、30代になる頃には所長として仕事ができるよう、今のうちから多くの学びを得て力を蓄えたいです。会社に大きく貢献できるような人間になりたいですね。

司会 本日は、部署を越えて皆さんの貴重な意見を聞くことができました。太名嘉組の素晴らしい未来へ向けて、これからも力を合わせて進んでいきましょう。ありがとうございました。

未来を真摯に見つめ、目標を持って 仕事に向き合っていく



DEPARTMENT INTRODUCTION

Each one of us has a professionalism. To be the ever-growing enterprise with collective effort.

一人ひとりがプロフェッショナル
総合力で成長し続ける企業へ

部署紹介

一つの構造物をつくり上げるためには、多くの人の力が必要です。技術力を活かして「つくる」人、お客様に寄り添いながら「売る」人、安全で快適な職場環境づくりで会社を「支える」人——。それぞれが各分野のプロフェッショナルとしての誇りと目標をもって仕事に取り組み、その力を集結させることで、太名嘉組はお客様に満足していただける事業を展開し続けています。



営業部



プロジェクトの顔として、
ときに調整役として、
ニーズとシーズを把握しながら
お客様の想いを具現化する。

営業部は太名嘉組の「顔」となる部門。お客様からの要望をヒアリングし、当社の技術力を最大限生かした計画の立案、社内各部署との調整、予算や納期の管理を含めた着工後のアフターフォローなど、お客様と現場の間に立ちながらプロジェクトを先導する役割を担っている。

現在営業部の平均年齢は約36歳と、他社と比べて若い。勉強会や建築・土木施工管理技士、宅地建物取引士（宅建）等の資格取得に力を入れており、今後10年、20年と経験を積むことで、会社の中核を担う存在に成長し、太名嘉組をさらに躍進させる力となることが期待されている。

「部員一同、お客様の要望に対して『誠心誠意』努め、顧客満足を第一に考えたプランを提案し、より良い品質を提供します。また、公共・民間工事において移り変わる時代のニーズに対応し、新規工事案件の獲得に努めています」



営業部 部長
下地 雄也

● 業務内容

【営業品目】 公共営業課…官公庁庁舎、公共施設、学校、道路、橋梁、港湾関連施設 他
民間営業課…ホテル、商業ビル、クリニック、マンション・アパート、戸建住宅、リフォーム工事 他

公共営業課

国や県、市町村などが発注元となる公共工事を担当。官公庁が公告する入札情報を収集し、積算資料等の必要書類を準備して入札に参加。受注契約後は、該当部署に引き継ぎを行うまでが主な業務となっている。

当社は創業以来、多くの大型建築や構造物を手掛けてきた実績があり、特に公共工事において高い技術提案力を発揮している。今後も発注者より多くの信頼を獲得し、さらなる受注獲得につなげていく。

民間営業課

民間企業や個人のお客様からの受注工事を担当。お客様のニーズに応えるため、より緻密な計画とフレキシブルな対応力が求められる。そのため、日頃より市場動向の調査・分析を行っているのはもちろんのこと、モデルルームの建設や建売住宅の計画を実施するなど、お客様のニーズに合った建物を提案できるよう取り組んでいる。また、建築住宅についてはプレキャスト工法を取り入れており、工期短縮や計画的な工事遂行、コストの低減に努めている。

実績



平成22年度座津武地区道路改良(その1)工事



(仮称)てだこ交流文化センター建設工事(建築)



中城湾港土砂処分場Ⅰ中仕切護岸外1件築造工事



平成27年度伊平屋漁港突堤工事

土木部

【土木積算室／汚染土壌処理事業課】

豊かな未来に向けた
まちづくりのため、
次世代建設生産システムの
構築を目指す。



土木部が提供するの、道路・橋・ダム・空港・港といった人々の生活を支える社会基盤である。多くの人が工事にに関わり、数十年、あるいは100年以上にわたり利用される構造物を作り上げるスケールの大きさが仕事の醍醐味とも言えるが、その分、責任感と緊張感を持って従事する必要がある。また、環境への配慮や地域住民からの理解を得ることも重要な責務である。

近年はICT施工に積極的に取り組むほか、施工方針の共有や創意工夫のための意見交換を行うことでチームワークを形成し、さらなる品質改善および生産性向上を図っている。優良技術者表彰(国発注工事で

評価80点以上、県発注工事で評価85点以上獲得)を目標にチーム一丸となって取り組んでいく。

「土木建設は人類の歴史そのものであり、子どもたちに未来を託すためのツールだと思います。そしてそこそが土木部の最大の誇りです」

土木部 部長
宮城 喜昭

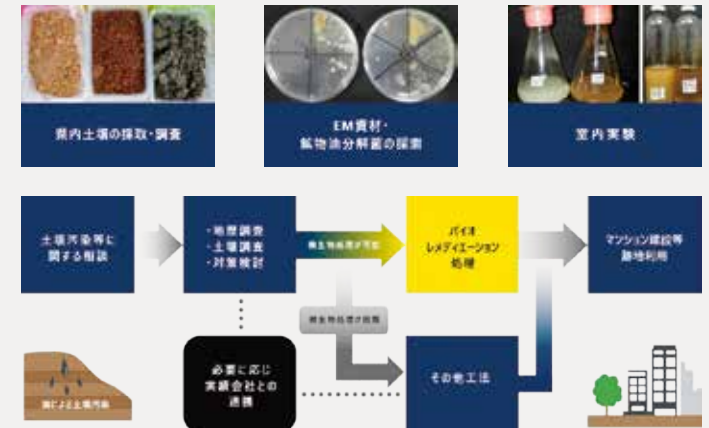


業務内容

【施工品目】 道路・トンネル・橋・ダム・空港・港・農林漁港などの土木工作物の建設工事

汚染土壌処理事業

- (1) 土壌・地下水汚染の調査業
- (2) 汚染土壌の処理工法の提案から処理工事までのトータルサポート
- (3) 産業廃棄物の除去工事
- (4) 有害廃棄物の除去作業
- (5) PFOS含有廃棄物の処理コーディネート
- (6) PFOS排水の減容化～処理業務



実績・表彰

防衛省施設監表彰	平成30年7月31日	牧浦(H28)警衛所等(国道58号線沿)新設土木工事(その1)
沖縄防衛局調達部長表彰	令和元年6月13日 令和3年6月21日	シュワブ(H27)仮設道路工事(8工区) 陸自宮古島(30)訓練場地区造成工事(その2)
内閣府沖縄総合事務局長表彰 那覇港湾・空港整備事務局表彰	平成26年7月16日 平成27年7月22日 平成27年7月22日	中城湾港土砂処分場2護岸外2件築造工事 中城湾港土砂処分場C護岸外3件築堤工事 那覇港(泊ふ頭地区)道路上部工(P8～P12)外1件工事
沖縄県土木建築部長表彰	平成30年5月11日	浦添西原線都市モノレール建設工事(地下構造物H27-NATM)
沖縄県中部土木事務所長表彰	令和2年4月28日 令和3年4月27日	伊計平良川線世間橋補修工事(H30) 中城湾港(新港地区)海邦橋耐震補強工事(R2)
沖縄県農林水産部長表彰	令和元年7月17日	渡名喜漁港第2沖防波堤消波ブロック製作・設置工事(H29-2)
伊平屋村長表彰	平成26年1月30日	コーチ原地区農地保全整備工事(23-2工区)
南部国道事務所長表彰	平成13年7月12日	沖縄都市モノレール久茂地地区下部工(P254～P259)工事



平和の礎建設工事



真玉橋橋梁整備工事



市道国際センター線都市モノレール建設工事(下部工H26-1)



我喜屋ダム建設工事(本体)



平成30年度名護東道路4号トンネル工事



那覇空港滑走路増設5工区・6工区埋立工事

建築部

【企画室／建築積算室】



目標は「顧客満足度100%」
時代のニーズを捉えた戦略と技術力で
太名嘉組を牽引する。

1982(昭和57)年に、本社が浦添へ移転したことをきっかけに建築部が発足。当初はわずか4人の小さな部署だったが、現在は総勢46人(令和3年現在)で企画提案、基本計画の作成、設計図・施工図の作成、施工管理、研究開発など、多岐に渡る業務を遂行。公共工事をはじめビルやマンション、病院、文化施設、商業施設など数多くの建築物を手掛け、完工高年間70億円を超える大きな部署に成長している。

近年は沖縄県の経済発展に伴い観光客や人口が増加傾向にある。そのため建築部では、住宅建築を専門に取り扱う企画室を立ち上げ、最新のPCパネル工法を取り入れたRC造の戸建て分譲住宅建築を

展開。また、飛躍的に進化するAIやIT化の波に乗り遅れることなく、BIMシステム等の最新技術の導入にも取り組んでいる。

「“お客様にとって良いものを安く、早く”をモットーに、部員一同日々研鑽して参ります」

建築部 部長
吉田 哲也



● 業務内容

【施工品目】 民間工事…分譲マンション・ホテル・共同住宅・商業ビル・店舗・病院・事務所・倉庫・住宅等
公共工事…学校施設・高層県営住宅・役場庁舎・港湾施設等
その他…建物解体工事・増改築工事



赤嶺 茂則 積算室長

【室長からの一言】

当積算室にも高齢化の波が押し寄せていましたが、今年度は20代のフレッシュな社員が加入したことにより平均年齢もぐっと下がり、以前にも増して明るい雰囲気になりました。今後は、最新のBIM積算システムの活用に取り組み、営業部・工事部と連携しながらより良い物件の受注を目指していきます。



実績

伊平屋製糖施設(含みつ糖製造)新築工事(1工区)

【工期】平成31年1月8日～令和2年10月30日 【発注者】伊平屋村 【現場所長】比嘉澄夫

「地元産業の発展と人材育成を目指して」をテーマにプロジェクトが始動。全国初となる比重選別前処理整備を完備し、環境に配慮した施設が完成した。工事期間中は島内の幼稚園児や小中学生が見学に訪れるなど、多くの応援が現場の励みになった。



県立那覇A特別支援学校(仮称)新築工事(建築1工区)

【工期】令和元年10月16日～令和3年6月30日 【発注者】沖縄県 【現場所長】仲里進太郎

17もの会社関わった工事は、他工区との重機配置や日程の調整、作業スペースの確保など、いくつかの会議を重ねながら進捗していった。小中高一貫校の校舎のため、特別教室をはじめ多種多様な設備があり、学びの多い現場だった。



(仮称)プレサンスロジェ西崎レーブ新築工事

【工期】平成30年11月20日～令和3年8月25日 【発注者】(株)プレサンスコーポレーション 【現場所長】仲村仁志

地上19階・地下1階構造、全178戸の分譲マンションは、自走式駐車場の施工も含めた大型工事となった。細心の注意を払いながら作業にあたり無事故無災害で引き渡すことができたことは、担当者や協力会社にとって大きな誇りと自信になった。



米軍部



サ
ス
テ
ィ
ナ
ブ
ル
な
組
織
と
社
会
の
実
現
を
目
指
し
て、
多
様
な
価
値
観
を
活
か
し
成
長
し
続
け
る。

米軍部は在沖米軍（4軍）から受注する新築・増築工事を基盤に、新しい契約・営業形態、提携業者の開拓、施工技術の刷新にチャレンジしている。

なかでもグローバルな人材育成に力を入れており、フィリピンやネパールをはじめとするアジア地域、イギリス、ドイツ、アメリカなど様々な地域から外国人を積極的に雇用し、多様性を受け入れ助け合う“ONAKA Spirit”のもとで優秀な人材を育ててきた。また、昨今の建設業契約形態の基本となっているMACC契約においては、デザインのプロである設計事務所と協働し、設計施工の契約を獲得している。今後は社内の環境部署や環境関連会社との連携を強化し、米軍施設の環境整備

や有害廃棄物処理等にも取り組んでいく。

「多様な人材が広く活躍できるサステナブルな社会の実現に向け、強いチームワークのもと、リーダーシップを発揮していく所存です」



米軍部 部長
仲村 始

● 業務内容

【施工品目】 設計施工契約（DB） 新築、改修、修繕、維持、復旧、復元、アップグレード工事
施工契約（DBB） 新築、改修、補修、修繕、維持、復旧、復元、アップグレード工事

主要発注先

AIR FORCE 【空軍】 KAB

KAB MACC・KAB MINI MACC・KAB SUPER MACCを軸に、18CONから建物改修工事・建物新設工事・滑走路整備工事・フェンス工事・道路整備工事・電気工事・機械空調消火設備・ACM・LBP除去工事等を請け負う。

NAVY 【海軍】 FEAD

FEAD バトラーBIG MACC・FEAD PWD BIG MACCを軸に、フィード・バトラー・PWDより建物新設工事・港湾整備工事・フェンス工事・道路整備工事・電気工事・機械空調消火設備・ACM・LBP除去工事等を請け負う。FEADバトラーより県内海兵隊施設廃棄物処分サービス契約を獲得。

ARMY 【陸軍】 DE

DE MATOC・一般競争入札・DE環境課指名工事を軸に、建物新設工事・港湾整備工事・法面復旧工事・フェンス工事・道路整備工事・電気工事・機械空調消火設備・ACM・LBP除去工事等を請け負う。

DLA 【国防兵站局】

DLAより有害廃棄物島内処分業務を請け負う。

MARINE 【海兵隊】

一般競争入札で資材販売などの実績あり（伊江島滑走路舗装資材）。県内海兵隊施設廃棄物処理サービスを実施。

実績・業務風景



Ribbon Cutting Ceremony



トリステーション B266 体育館改修工事



トリイビーチ パビリオン 新築工事



瑞慶覧小学校解体工事作業所



嘉手納ミニマック トリステーション作業所

総務部



多岐にわたる総務の仕事
迅速な事務処理で会社の業務を支援する。
社員の働きやすい職場環境を整える。

総務の仕事は、会社全体の業務を円滑に進めるためのサポートである。総務事務は、受付業務・文書管理・労務管理・安全衛生管理・福利厚生・社員研修・資格取得支援等、多岐にわたる中、総務部では社員の充実した職場・社会生活を第一に働き方改革を推進している。

日頃、幅広い業務をこなす総務部員は、高度な事務処理能力と広い視野での判断能力、社内の規則や仕事の仕組みを正しく理解し、複数の部署の業務に同時に対応できるスキルが求められ、日頃からの社員とのコミュニケーションと細やかな気配りを必要とする。総務部のモットーは「笑顔」での対応だ。



リモートワークや短時間勤務など、さまざまな働き方の推進にも力を入れている。

● 業務内容

労務管理、物品管理、文書管理、庶務

経理部



経理・財務の仕事で
企業活動を支援する。

経理部は、企業活動に係る資金の調達から支払い業務まで会社に関わる経理・財務全般の仕事を行っている。経理事務は企業活動の中で日々発生する、入金処理・出金処理等の出納業務のほか、経営判断に資する資料の作成及び各期の決算資料の作成を行う。



建設業の会計処理は高度な事務知識を要する。

● 業務内容

財務会計、管理会計、集金業務

安全管理室



大切な「人」を守るため、
安全衛生意識を向上させ
無事故・無災害に全力で取り組む。

太名嘉組の安全衛生管理の基本方針である「企業にとってもっとも大切なのは『人』である」を実現することが、安全管理室に与えられたミッションである。建設事業を行うにあたって発生する可能性のある潜在的リスクを明らかにし、それらを低減してゼロ災害を達成するための対策を講じること。これを第一に、健康で快適な職場・現場環境づくりのサポートに努めている。

具体的には、次の事項を重点施策としている。

- ・安全衛生管理体制の確立
- ・墜落・転落災害、倒壊・崩壊災害、建設機械・クレーン等の三大災害防止
- ・熱中症発生の防止
- ・交通労働災害の防止
- ・5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)活動の推進
- ・各種健康診断受診100%及びメンタルヘルス対策の実施

「当社の職員および工事現場で働く関係従業員を、健康でケガなく笑顔で家族のもとへ帰宅させること。それが私たちの使命です」



安全に作業できる環境を整えることが、工事の品質や工程の確保につながる。

伊平屋支店



1982(昭和57)年12月、名嘉建設から株式会社大名嘉組に改称し、事務所を浦添市内間へ移転した際に伊平屋支店を開設。入札業務やお客様対応の窓口として、伊平屋村役場庁舎や港湾施設、産業連携拠点センター、大型製糖工場といった公共建設から民間住宅建築まで、伊平屋島内の大小さまざまな工事を本社と連携しながら進めてきた。

太名嘉組誕生の地である伊平屋島の発展は創業者の祈願であり、スタッフ一同の願いでもある。これからも「誠心誠意」の心で地域に貢献していきたい。



伊平屋生コンプラント・アスファルトプラント



1977(昭和52)年7月、名嘉生コンとして生コン製造工場を開設したことが当部所の起源である。現在は10tミキサー車5台、5tミキサー車1台を保有し生コンの製造出荷を行うほか、アスファルト合材の製造も行っている。また、近年は特殊コンクリートを使った工事が増えているため、提携会社の協力を得て勉強会の実施や製造講習を受講するなど、スキルアップに取り組んでいる。

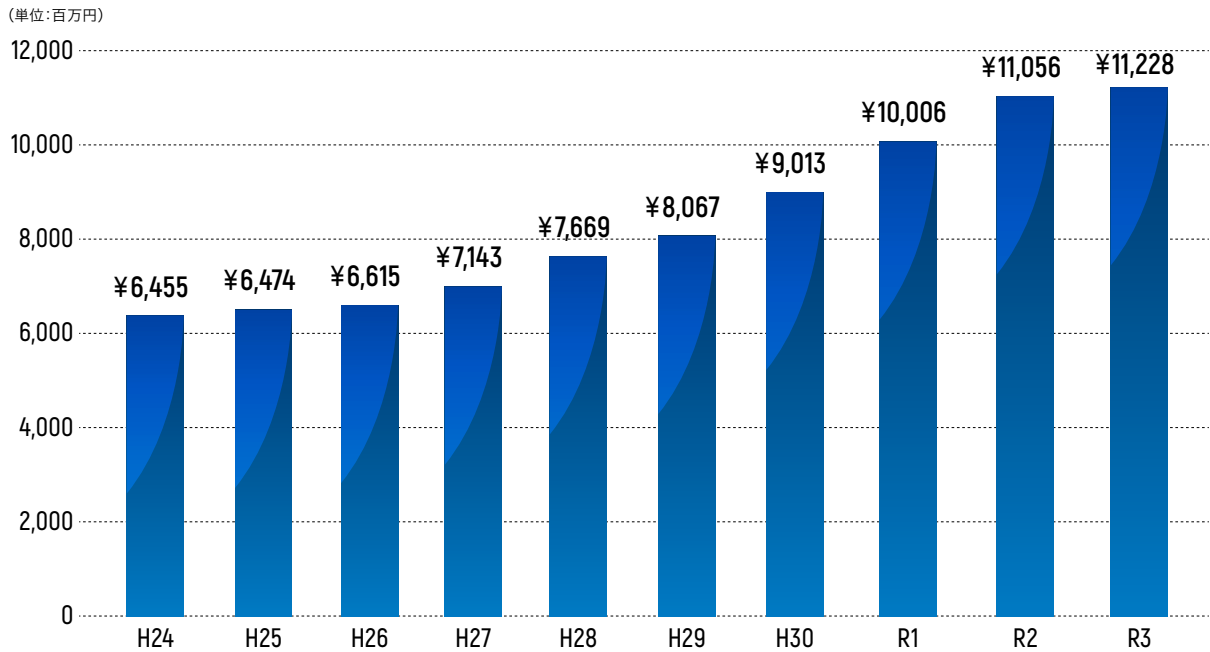
業務外では学校行事や地域の活動に積極的に参加し、スタッフ同士の強い連帯意識や助け合いの精神を育てている。



会社概要

所在地	〒901-2113 沖縄県浦添市字大平2丁目1番1号	関連会社	株式会社伊葉開発 沖縄県島尻郡伊平屋村字島尻1982番地24
創業	昭和47年		
資本金	100,000,000円	品質方針	我社は、「顧客の満足する製品を提供し、地域社会に貢献する。」を方針に掲げ、実現に向け顧客や社会のニーズを捉えて、顧客サービス・社内の仕組みを絶えず改善していく。
建設営業許可	■ 沖縄県知事許可(特定)第3160号 土木工事業／建築工事業／大工工事業／左官工事業／とび・土工工事業／石工事業／屋根工事業／タイル・れんが・ブロック工事業／鋼構造物工事業／鉄筋工事業／ほ装工事業／しゅんせつ工事業／板金工事業／ガラス工事業／塗装工事業／防水工事業／内装仕上工事業／熱絶縁工事業／建具工事業／水道施設工事業／解体工事 ■ 沖縄県知事許可(一般)第3160号 管工事業	環境方針	我社は、「恵まれた自然を守り、大地を育み、生活環境を創造する。」を方針に掲げ、次世代に生かすことを共に考え拓し、明るい未来を築いていく。
営業種目	■ 土木建築請負業並びにその設計・施工及び管理 ■ 建設資材の販売並びに電気水道工事請負業 ■ 建設機器・車輛賃貸業及び土地・建物の売買並びに賃貸・管理業 ■ 砂利・砂・採取販売業 ■ 損害保険の代理店業及び生命保険の募集に関する業務 ■ 前各号の付帯関連する一切の事業	地域未来牽引企業	太名嘉組は地域経済をリードする中核企業として「地域未来牽引企業」に経済産業省より選定されています。 「地域未来牽引企業」は、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長を力強く牽引する事業を更に積極的に展開すること、または、今後取り組むことが期待される企業を指します。

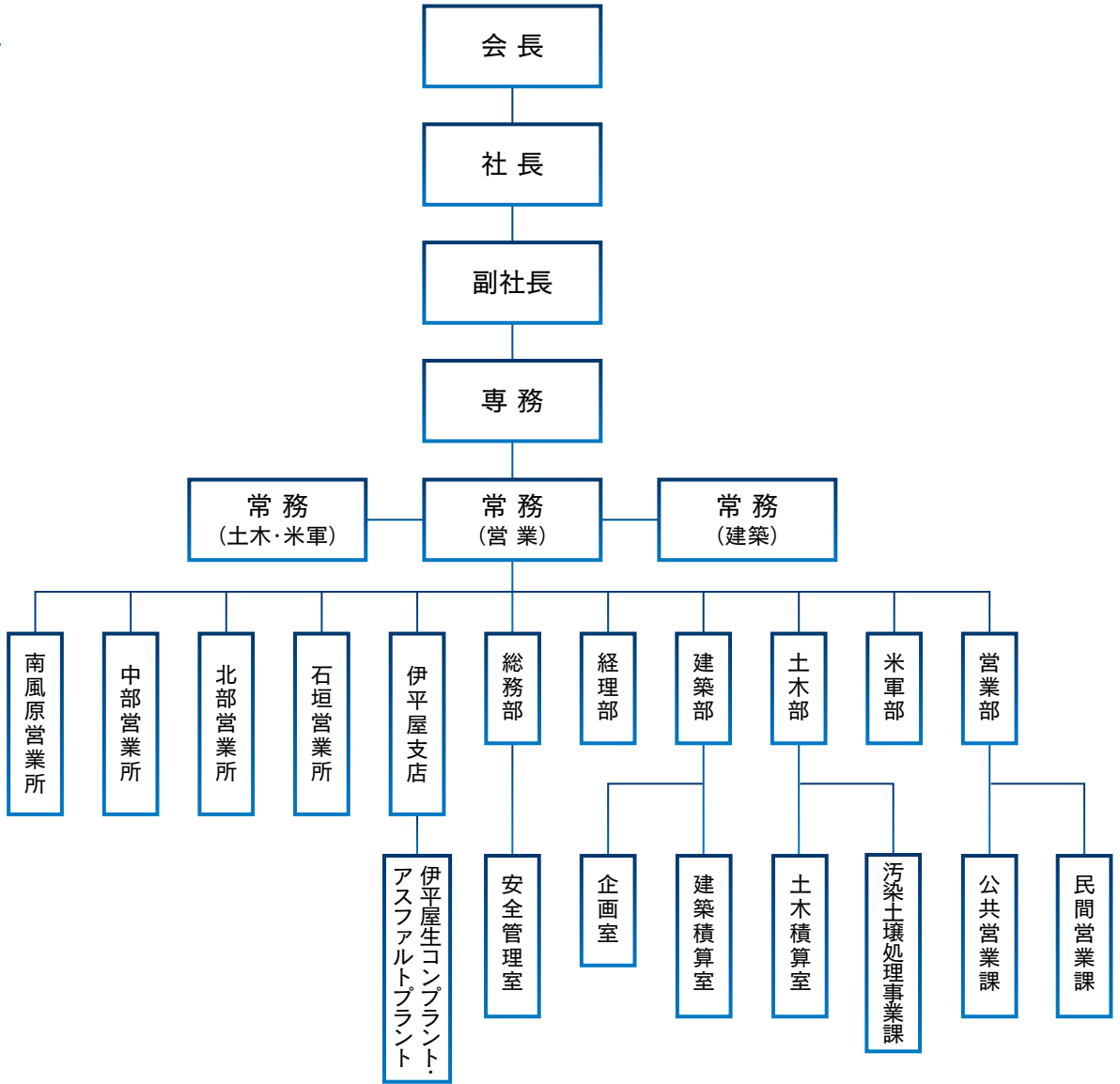
売上高



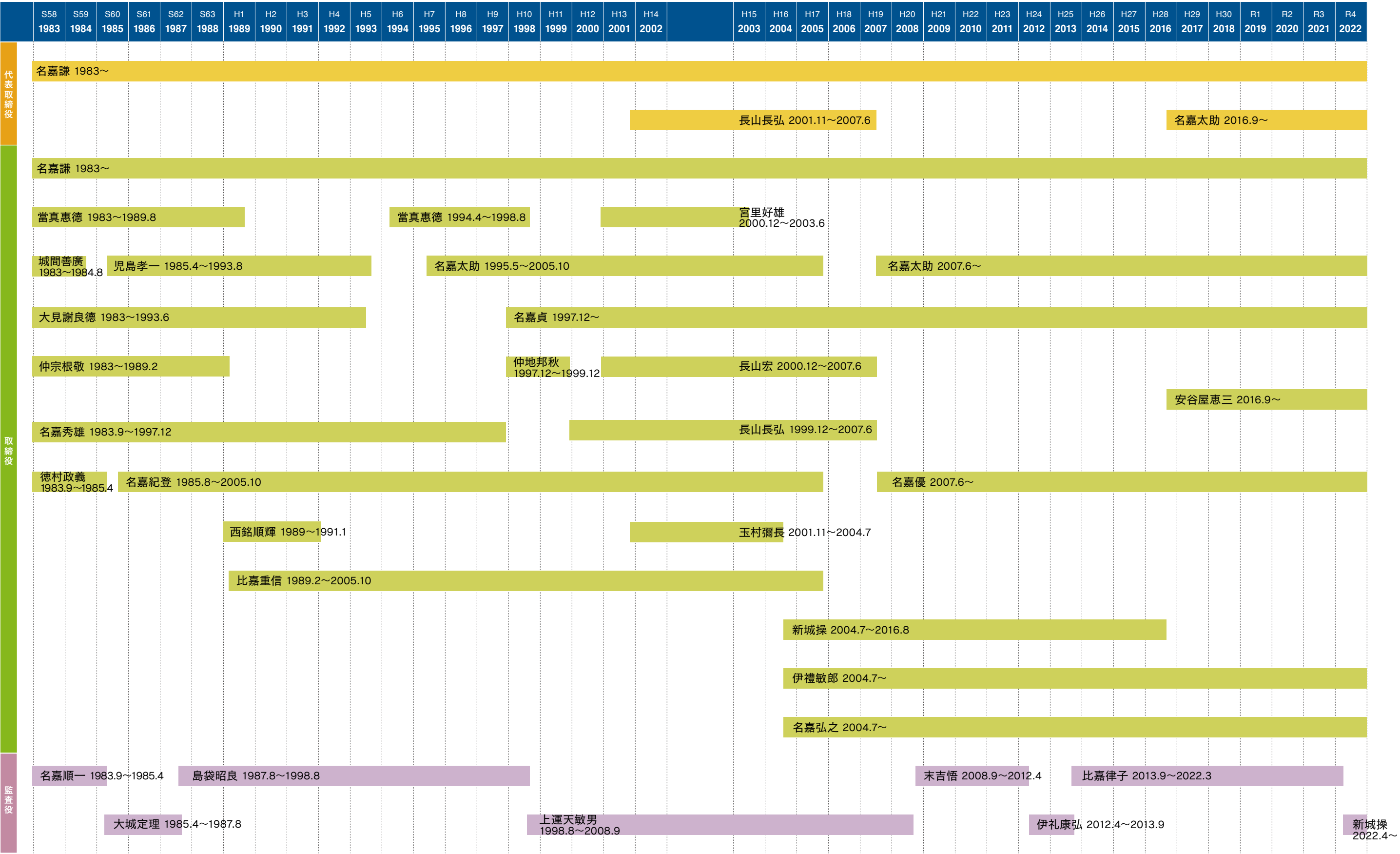
現役員

代表取締役会長 名 嘉 謙	代表取締役社長 名 嘉 太助	取締役副社長 名 嘉 弘之	
専務取締役 伊 禮 敏 郎	専務取締役 安谷屋 恵三	常務取締役 名 嘉 優	
執行役員常務 平 良 整	執行役員常務 与那覇 英範	取締役 名 嘉 貞	監査役 新 城 操

組織図



歴代役員任期一覧



—
訓
示
—

やろうと思えばできる
たとえ知識や能力が備わっても
できないと思ってしまうえば事は成らない
目標を立てたら まずやろうと思うこと
そして必ずできると信じて
積極的に臨んでこそ成果があがってくる

代表取締役会長
名 嘉 謙

—
訓
示
—

社員教育と人材育成！
役員・社員の創意工夫が
会社の礎となることを自覚しよう！

代表取締役社長
名嘉 太助

工 事 実 績

発注者	工事名	各期件数
第1期 1983(昭和58)年1月～1983(昭和58)年6月		13件
沖縄県	浜港橋橋梁整備工事	
伊平屋生コン	伊平屋生コンプラントサイド改善工事	
伊平屋村	伊平屋村立歯科診療所新築工事	
伊平屋村	ソーレン線道改良工事(第二工区)	
第2期 1983(昭和58)年7月～1984(昭和59)年6月		45件
沖縄県	県道野甫線特殊改良一種工事(2工区)	
浦添市	ばんじー公園工事	
伊平屋村	昭和58年度伊平屋漁港南防波堤工事(第1工区)	
伊平屋村	団体営農道工事(野甫地区)	
沖縄県	前泊港ブロック製作工事(その4)	
伊平屋村	昭和58年度伊平屋漁港西防波堤工事(第2工区)	
伊平屋村	島尻かんがい施設溜池工事	
伊平屋村	昭和58年度伊平屋村簡易水道施設整備工事	
座間味村	座間味村簡易水道工事	
伊平屋村漁業協同組合	伊平屋村漁業協同組合処理加工施設新築工事	
第3期 1984(昭和59)年7月～1985(昭和60)年6月		38件
社会福祉法人琉球溢愛会	愛泉園造成工事	
浦添市	第二工区擁壁工事	
沖縄県	総合運動公園污水管布設工事	
宜野湾市	真志喜地区土地区画整理事業街路工事(第四工区)	
浦添市	城間第1処理分区枝線工事その3(第12工区)	
浦添市	仲西中学校運動整備工事	
伊平屋村	昭和59年度伊平屋漁港修築工事	
沖縄県	県道田名野甫線災害防除工事(2工区)	
沖縄県	村道アッチャビン線災害復旧工事	
沖縄県	野甫港防波堤ブロック製作工事	
沖縄県	県営浦添市街地住宅集会室建築工事	
伊平屋漁港協同組合	伊平屋村漁港荷捌施設新設工事	
第4期 1985(昭和60)年7月～1986(昭和61)年6月		44件
沖縄県	山里～普天間送水管布設工事(第7工区)	
浦添市	港川第2処理分区枝線工事(第4工区)	
沖縄県	南風原幹線污水管布設工事	
伊平屋村	村道アッチャビン線災害復旧工事(1工区)	
伊平屋村	伊平屋漁港沖防波堤工事	
(株)マルセイ	第二マルセイマンション新築工事	
伊平屋村	伊平屋村立伊平屋小学校教員宿舍改築工事	

発注者	工事名	各期件数
第5期 1986(昭和61)年7月～1987(昭和62)年6月		30件
沖縄県	伊佐～普天間送水管布設工事(第2工区)	
沖縄県	野甫港防波堤(南)工事	
伊平屋村	昭和61年度伊平屋漁港沖防波堤工事	
沖縄総合事務局	瑞慶山ダム仮排水路工事	
丸信住宅	サンシャイン長田マンション新築工事	
沖縄総合事務局	那覇港(浦添地区)物揚場(−4.0m)築造外1件工事	
第6期 1987(昭和62)年7月～1988(昭和63)年6月		37件
沖縄県	瑞慶山ダム～嘉手納導水管布設工事第1工区(その2)	
沖縄県	前泊港(我喜屋地区)防波堤災害復旧工事(その1)	
浦添市	勢理客第1号污水幹線工事(第5工区)	
沖縄県	米崎海岸災害復旧工事(61年災42号)	
伊平屋村	昭和62年度伊平屋漁港防波堤工事	
沖縄県	田名地区排水路工事	
沖縄県	田名地区排水路工事(第2工区)	
沖縄総合事務局	与那原法務局出張所2階建築工事	
沖縄県住宅供給公社	大山団地分譲住宅第1期工事(第3工区)	
沖縄総合事務局	那覇港(浦添地区)防波堤(浦添)根固方塊製作工事	
那覇市	浦添ふ頭緑地(南)護岸(浚渫)工事	
宜野湾市	配水管改良工事、第4工区	
第7期 1988(昭和63)年7月～1989(平成元)年6月		56件
那覇市	11工区宇栄原地内公共下水道(污水)工事	
伊平屋村	土地改良総合整備工事(島尻地区)	
沖縄県	来間地区一般農道橋梁下部工事	
沖縄県	田名地区水門及び排水路工事	
那覇防衛施設局	那覇(62)公務員宿舍新設土木工事	
浦添市	大宮地区第4工区街路(2-2-2)築造工事	
沖縄総合事務局	仲座歩道設置及び修繕(その3)工事	
南風原町	南星中学校災害復旧工事	
伊平屋村	伊平屋村立伊平屋中学校校舎改築工事	
伊平屋村	伊平屋村役場庁舎建築工事	
沖縄県	大平養護学校校舎改築工事	
沖縄県	渡久地港航路泊地(−4m)浚渫工事	
第8期 1989(平成元)年7月～1990(平成2)年6月		33件
浦添市西原土地区画整理組合	平成元年度第1工区造成工事	
沖縄県	野甫港防波堤(南)工事	

工 事 実 績

発注者	工事名	各期件数
沖縄総合事務局	那覇港(浦添地区)内防波堤本体ブロック製作工事(第2次)	
西原町	西原町立西原東小学校校舎新增築工事(建築工事)	
名嘉食品	名嘉食品事務所兼倉庫新築工事	
第9期 1990(平成2)年7月～1991(平成3)年6月		32件
西原土地区画整理組合	平成元年度第11工区造成工事	
沖縄県	伊波～嘉手納導水管布設工事(第5工区)その2	
沖縄県	前泊港(我喜屋地区)防波堤(波除)工事(1工区)	
沖縄県	中城湾港(新港地区)緑地(Ⅰ)施設整備工事	
沖縄総合事務局	百名地区改良(その4)工事	
沖縄総合事務局	瑞慶山ダム第1期工事	
那覇防衛施設局	コートニー(元)教育施設新設建築工事	
浦添市	仲西中学校校舎改築工事	
舩田住宅(株)	グランピア我如古新築工事	
(株)大生	大生マンション新築工事	
第10期 1991(平成3)年7月～1992(平成4)年6月		39件
沖縄県	越来ポンプ場土木建築工事	
那覇防衛施設局	嘉手納(2)整備用格納庫(1工区)新設土木工事(その1)	
沖縄総合事務局	瑞慶山ダム建設2期工事	
沖縄県	県道田名野甫線特殊改良一種工事(田名工区)	
伊平屋村	田名漁港第1護岸工事	
沖縄県	伊平屋地区モズク養殖場造成工事	
沖縄県	県道37号線道路改良工事(第3工区)	
那覇防衛施設局	嘉手納(3)管理棟(1工区)新設土木工事(その1)	
沖縄県	渡嘉敷港防波堤(南)災害復旧工事	
沖縄総合事務局	那覇港(新港地区)防波堤(新港第一)(改良)被覆工事(第3次)	
(株)大生	ヴェルテ大謝名新築工事	
(株)殿内総業	メゾン・リベルテ住吉シェル新築工事	
沖縄県	中部農林高校産振施設建築工事	
伊平屋村	野甫島離島振興コミュニティセンター建設工事(建築工事)	
(有)大栄住宅	太陽新築工事	
第11期 1992(平成4)年7月～1993(平成5)年6月		35件
沖縄県	仲田港岸壁(－4.5m)及び港湾施設用地工事	
沖縄総合事務局	瑞慶山ダム建設3期工事	
沖縄県	伊江港防波堤(Ⅱ)及び護岸(防波)工事	
沖縄県	工業用地く護岸築堤工事(その2)	

発注者	工事名	各期件数
伊平屋村	田名漁港第1護岸及び用地護岸工事(3工区)	
沖縄県住宅供給公社	海邦町分譲住宅第3期建築工事(第11工区)	
警察共済組合沖縄県支部	警察共済組合沖縄県支部宿泊保養施設「サザンプラザ海邦」建築工事	
沖縄電力(株)	具志川火力発電所新設石膏倉庫工事	
伊平屋村	平成4年度、伊平屋村公営住宅新築工事	
沖縄県	大平養護学校校舎及び水泳プール建築工事	
第12期 1993(平成5)年7月～1994(平成6)年6月		37件
沖縄県	田名地区ほ場整備工事(第1工区)	
伊平屋村	伊平屋念頭平松公園整備工事	
佐敷町	佐敷町文化センター(仮称)新築工事(建築)	
沖縄県住宅供給公社	友寄ハイツ分譲住宅第1期建築工事(第1工区)	
北中城村	北中城中学校改造建築工事	
(株)大生	ヴェルディ西原建売住宅建築工事5棟	
沖縄県	仲田港防波堤(内)工事	
沖縄総合事務局	長堂川橋床版工事	
地域振興整備公団	那覇市新都心道路築造(その101)工事	
沖縄総合事務局	東原地区改良(その2)工事	
沖縄電力(株)	具志川火力発電所新設揚炭バース泊地航路浚渫工事	
第13期 1994(平成6)年7月～1995(平成7)年6月		39件
伊平屋村	田名漁港－2.5m物揚場及び航路浚渫工事(2工区)	
沖縄総合事務局	真玉橋地区改良(その2)工事	
沖縄県	前泊港岸壁(－4.5m)及び港湾施設用地工事	
沖縄県	金武湾港(平安座南地区)物揚場(－2.5m)(Ⅰ)施設用地及び泊地浚渫工事	
沖縄県	田名地区排水路工事(第1工区)	
伊平屋村	田名漁港第1護岸、第2護岸及び第1波除堤工事	
浦添市	牧港第1号汚水幹線工事(第5工区)	
沖縄県	平和の礎建設工事	
沖縄県	県営翁長高層住宅第3工区建築工事	
那覇防衛施設局	与座分屯地(5)DS工場改修建築工事	
沖縄県	コザ高校校舎改築工事(建築・理科棟)	
沖縄電力(株)	石垣第二発電所3号機増設工事(建築)	
知念村	知念中学校体育館新築工事	
軽自動車検査協会	軽自動車検査協会沖縄事務所新築工事	
伊平屋村	伊平屋村公営住宅新築工事	
(株)大生	ベルデイ宮里新築工事(6件)	

工 事 実 績

発注者	工事名	各期件数
第14期　1995(平成7)年7月～1996(平成8)年6月		53件
沖縄県	真玉橋橋梁整備工事(下部工)	
浦添市西原土地区画整理組合	平成7年度西原土地区画整理整備工事	
伊平屋村	島尻処理区管路施設工事	
沖縄県	渡名喜漁港航路浚渫工事(第2工区)	
浦添市	運動公園施設整備工事(第1工区)	
沖縄総合事務局	国場地区改良工事	
南風原町	南風原中学校屋内運動場等危険建物(建築)新增改築工事	
伊平屋村	村民プール新築工事	
伊平屋村	伊平屋村高齢者福祉センター建築工事	
第15期　1996(平成8)年7月～1997(平成9)年6月		47件
沖縄県	真玉橋橋梁整備工事(下部工その2)	
沖縄総合事務局	宮里交差点改良(その2)工事	
伊平屋村	コーチ原ため池整備工事	
浦添市	小湾処理分区枝線工事(第8～2工区)	
沖縄県	渡名喜漁港航路浚渫及び護岸工事(第3工区)	
沖縄県	久米島空港旅客ターミナルビル建設工事	
沖縄県	沖縄県立武道館アリーナ棟建設工事(建築)	
沖縄県住宅供給公社	エコシティ・とはしな分譲住宅第1期建築工事(第4工区)	
那覇防衛施設局	与座分屯地(7)体育館新設建築工事	
(株)富士開発	ニューライフ天久新築工事	
第16期　1997(平成9)年7月～1998(平成10)年6月		38件
伊平屋村	田名漁港北防波堤工事	
沖縄総合事務局	那覇港(新港地区)防波堤(浦添第一)消波ブロック製作工事(第3次)	
沖縄県	中城湾港(新港地区)岸壁(－7.5m)東及び港湾施設用地整備工事	
沖縄県	西系列幹線導水施設幸喜～富着導水管布設工事(第4工区)その3	
沖縄県	宜野湾港緑地(Ⅰ)護岸工事	
那覇防衛施設局	牧補(8)厚生施設(387)新設土木工事	
沖縄県	前泊港防波堤(沖)(東)工事	
社会福祉法人起産石川(仮称)	石川学院及びデイサービスセンター新築工事	
沖縄県	栽培漁業センター増設工事(飼料培養棟建築工事)	
文京メディカルプラント(株)	文京メディカルプラント(株)社宅新築工事	
沖縄県	県立石嶺児童園改築工事(建築2工区)	
浦添市	運動公園自走式駐車場建設工事	
大里村	大里中学校部室・武道場新築工事(建築)	

発注者	工事名	各期件数
第17期　1998(平成10)年7月～1999(平成11)年6月		43件
沖縄総合事務局	東風平高架橋下部(A1、上りP1～P8)工事	
沖縄県	西系列幹線導水施設幸喜～富着導水管布設工事(第6工区)その3	
沖縄県	前泊港防波堤(沖)(東)工事(その3)	
沖縄県	西系列幹線導水施設幸喜～富着導水管布設工事(第14工区)その1	
沖縄県	真玉橋橋梁整備(P1橋脚補強)工事	
沖縄県	真玉橋橋梁整備(地盤改良)工事	
沖縄県	西系列許田増圧ポンプ棟建築工事	
(株)丸宮商会	(仮称)株式会社丸宮商会倉庫新築工事	
(医)沖縄徳洲会	(仮称)医療法人沖縄徳洲会ひめゆりクリニック新築工事	
那覇防衛施設局	瑞慶覧(9)バスターミナル(455)移設建築工事	
沖縄県	警察本部警察官待機宿舍新築工事(建築)	
第18期　1999(平成11)年7月～2000(平成12)年6月		56件
沖縄県	我喜屋ダム取水堰取付道路工事	
沖縄県	真玉橋橋梁整備工事(A1橋台)	
沖縄県	我喜屋ダム付替道路工事(4工区)	
沖縄総合事務局	大平地区歩道整備(その4)工事	
沖縄県	県立北嶺学園改築工事(建築1工区)	
沖縄県	栽培漁業センター増設工事(貝類飼育棟建築)	
伊平屋村	伊平屋村歴史民俗資料館建築工事	
伊平屋村	地域農産物等活用型総合交流型総合交流促進建設工事(建築)	
中城村	津覇小学校内運動場新增改築工事(建築工事)	
那覇防衛施設局	ハンセン(10)管理棟(844)新設工事(建・土)	
(株)富士開発	ニューライフ久米新築工事	
沖縄社会保険事務局	名護社会保険事務所庁舎新築工事(第1期)	
第19期　2000(平成12)年7月～2001(平成13)年6月		70件
沖縄総合事務局	沖縄都市モノレール久茂地地区下部工(P254～P259)工事	
沖縄県	野甫大橋橋梁整備第1期工事(仮栈橋工)	
沖縄県	前泊港防波堤(沖)(東)工事(その1)	
沖縄県	我喜屋ダム導水トンネル工事	
(株)富士開発	(仮称)Fステージ繁多川新築工事	
技研興業(株)	(仮称)Eスペース江洲店新築工事	
エス・バイ・エル沖縄(株)	コートヴィレージ真米原新築工事	
沖縄社会保険事務局	名護社会保険事務所庁舎新築工事(第2期)	
(株)琉信	サントピア那覇新都心新築工事(20室)	
(株)富士開発	Fステージ松島新築工事	

工 事 実 績

発注者	工事名	各期件数
第20期 2001(平成13)年7月～2002(平成14)年6月		68件
沖縄県	野甫大橋橋梁整備第2期工事(仮栈橋工・下部工P3、P4)	
(株)琉信	サントピア古波蔵新築工事	
(有)とまとハウジング	港川分譲マンション工事	
沖縄県	沖縄水産高校校舎改築工事(一般教室建築10工区)	
前村産業(株)	(仮称)前村マンション新築工事	
那覇防衛施設局	瑞慶覧(12)工場(722)新設建築工事	
伊平屋村	伊平屋村中学校校舎新增改築建築工事	
(株)琉信	サントピア古島新築工事	
沖縄県	我喜屋ダム周辺整備工事	
浦添市	宮城ヶ原(宮城)保育所建設工事(建築)	
浦添市	宮城ヶ原児童センター建設工事(建築)	
第21期 2002(平成14)年7月～2003(平成15)年6月		102件
沖縄総合事務局	読谷地区改良工事	
沖縄県	野甫大橋橋梁整備第3期工事(下部工A1、A2)	
伊平屋村	伊平屋地区養殖場造成工事(第1工区)	
沖縄総合事務局	津嘉山高架橋床版工事	
浦添市	街路3・5・3号宮仲線橋梁工事(上部橋面工)	
(株) 富士開発	(仮称)Fステージ勢理客新築工事	
沖縄県	沖縄県総合福祉センター(仮称)建設工事(建築1工区)	
(株) 琉信ハウジング	サントピア小禄南分譲マンション新築工事	
(株)琉信	サントピア宇栄原分譲マンション新築工事	
(株)琉信	サントピア松川新築工事	
(株) マエムラ商会	(仮称)株式会社マエムラ商会新都心賃貸マンション新築工事	
第22期 2003(平成15)年7月～2004(平成16)年6月		121件
沖縄県	我喜屋ダム建設工事(本体)	
沖縄県	西系列幹線導水施設羽地～許田導水管布設工事(第4工区)	
沖縄県	野甫大橋橋梁整備第5期工事(橋面工)	
嘉手納契約事務所	5121－5132建物741車輛整備工事	
OICC	C－2519普天間格納庫消火用水道本管取替工事	
(株)富士開発	(仮称)Fstage Akamine Station 新築工事	
(株)琉信	サントピアおもろまち第2新築工事	
沖縄県漁業協同組合連合会	乾燥もずく加工処理施設新築工事	
沖縄県	県営志真志団地建替第1工区建築工事	
(有)なかもと	仲本ビル新築工事	
沖縄県	普天間高校屋内運動場及び水泳プール改築工事(建築1工区)	
那覇防衛施設局	瑞慶覧(H14)低層住宅新設建築工事(S－3工区)	

発注者	工事名	各期件数
第23期 2004(平成16)年7月～2005(平成17)年6月		117件
沖縄総合事務局	与根地区改良(その1)工事	
沖縄県	南大東漁港掘削工事(第3工区)	
沖縄県	本部港(塩川地区)防波堤(南)工事(その4)	
沖縄県	野甫大橋橋梁整備第6期工事(撤去工)	
(有)めぐみ	めぐみビル新築工事	
(株)富士開発	Fステージとよみ新築工事	
(株)富士開発	Fステージ真志喜新築工事	
(株)松田商店	サンエーV21よなばる食品館新築工事	
(株)富士開発	那覇赤嶺ビューホテル新築工事	
沖縄県	新石川浄水場送水ポンプ棟建設工事	
伊平屋村	伊平屋小学校体育館新築工事(建築工事)	
第24期 2005(平成17)年7月～2006(平成18)年6月		92件
沖縄県	野甫小橋橋梁整備工事(上部工)	
沖縄県	野甫小橋橋梁整備工事(下部工)	
沖縄県	本部港(塩川地区)防波堤(南)工事(H17－3－北振)	
西日本高速道路(株)九州支社	沖縄自動車道福地川橋補修工事	
(株)日商エステム	(仮称)トゥエルヴ小禄南新築工事	
那覇防衛施設局	嘉手納(15)家族住宅(455)新設建築工事(4工区)	
(株)ビッグジェム	(仮称)那覇市赤嶺立体駐車場新築工事	
エス・バイ・エル沖縄(株)	(仮称)コートウィズ三原新築工事	
浦添市	仲西幼稚園園舎改築工事(建築)	
第25期 2006(平成18)年7月～2007(平成19)年6月		58件
沖縄県	有津横杭復旧工事	
(有)恵栄産業	恵栄産業共同住宅新築工事	
沖縄総合事務局	中城湾港土砂処分場D護岸築造工事	
沖縄県	渡名喜漁港ケーソン・ブロック製作工事	
伊平屋村	平成17年度村道我喜屋ダム線橋梁(下部工)工事	
(株)富士開発	Fステージ古波蔵新築工事	
浦添市	てだこ交流文化センター建設工事(建築)	
(有)明架	リブウェルレイクサイドステージ新築工事	
エス・バイ・エル沖縄(株)	コートヴィレージ浦添学園通り新築工事	
エス・バイ・エル沖縄(株)	コートヴィレージ浦添サンパーク通り新築工事	
首里パブリック協会	首里バプテスト教会教会堂・牧師館及び光の子幼稚園宿舍新築工事	
(株)富士開発	Fステージ奥武山新築工事	

工 事 実 績

発注者	工事名	各期件数
第26期 2007(平成19)年7月～2008(平成20)年6月		46件
沖縄総合事務局	平成18年度若狭高架橋下部工(A1～P7工事)	
沖縄県	許田～久志導水管災害復旧工事(第1工区)	
沖縄県	名護漁港南防波堤改良工事(第1工区)	
沖縄県	国道449号道路改良工事(本部南・H19～2工区)	
沖縄総合事務局	中城湾港土砂処分場C護岸築造工事(第2次)	
(株)富士開発	(仮称)Fステージ糸満新築工事	
エス・バイ・エル沖縄(株)	コートヴィレージ アラハオンザビーチ新築工事	
浦添市	浦添カルチャーパーク施設整備工事	
(株)シティライフコーポレーション	(仮称)宮古島市字平良西里マンション新築工事	
OICC	BID 普天間格納庫#505設計施工改修工事	
(株)ネオプランニング	宗教法人大典寺「西原浄苑」阿弥陀堂新築工事	

第27期 2008(平成20)年7月～2009(平成21)年6月		21件
嘉手納契約事務所	MAC 嘉手納ハーシー短期宿泊施設改修工事	
沖縄県	浜(鏡地)地区海岸整備工事	
沖縄総合事務局	那覇港(泊ふ頭地区)岸壁(ー9.0m)(耐震)上部床版工事	
沖縄総合事務局	那覇港(那覇ふ頭地区)道路(空港線)内部構築工事(2次)	
沖縄総合事務局	那覇港(泊ふ頭地区)道路築島工事	
(株)富士開発	(仮称)Fステージ豊崎パークフロント新築工事	
エールクリエイト(株)	ワイズガーデン小禄南新築工事	
エス・バイ・エル沖縄(株)	コートヴィレージ大謝名新築工事	
エス・バイ・エル沖縄(株)	コートヴィレージ小禄南ヒルズ新築工事	

第28期 2009(平成21)年7月～2010(平成22)年6月		84件
沖縄総合事務局	中城湾港土砂処分場イ中仕切護岸外1件築造工事	
沖縄総合事務局	那覇港(浦添ふ頭地区)防波堤(浦添第一)消波ブロック工事	
沖縄県	真地久茂地線識名トンネル新設工事(覆工)	
沖縄防衛局	那覇基地(20)事務室改修建築その他工事	
(株)沖縄タイムス	神元ビル解体撤去工事	
国営沖縄記念公園事務所	園内施設撤去工事	
(株)琉球銀行	(株)琉球銀行東風平支店内装工事	
第一交通産業(株)	(仮称)グランドパレス名護新築工事	
(株)ミルキーエステート	ミルコマンション小禄南ザ・ビュー新築工事	
(株)リウボウフーズ	リウボウフーズ改修工事	
(株)富士開発	(仮称)Fステージ豊崎リバーフロント新築工事	
浦添市	神森小学校屋内運動場改築工事(建築)	
伊平屋村	伊平屋村米崎海浜公園体験交流施設建築工事	

発注者	工事名	各期件数
第29期 2010(平成22)年7月～2011(平成23)年6月		69件
沖縄県	具志川環状線(2号橋)下部工その2工事(H21-4)	
沖縄県	真地久茂地線識名トンネル新設工事(舗装工)	
沖縄総合事務局	石垣港(新港地区)泊地(ー9.0m)②水中土砂処分場築造工事	
浦添市土地開発公社	那覇港浦添ふ頭地区公有水面埋立(第4～2工区)	
沖縄総合事務局	平成21年度 横断歩道橋上部工工事	
沖縄県	西原浄水場送水管布設工事	
南城市	久手堅船だまり整備工事	
那覇防衛施設局	瑞慶覧(H18)病院新設建築工事	
(株)創夢	ISLAND BOWL 新築工事	
(有)住太郎ホーム	(仮称)ベアーズコート美浜新築工事	
(株)ミルキーエステート	ミルコマンション三原大石通り新築工事	
(株)沖縄日商エステム	(仮称)ワイズエステムコート北谷町美浜新築工事	
宗教法人沖縄県護国神社	沖縄県護国神社社務所棟増築工事	
(有)E.T.S	(仮称)有料老人ホームひまわり新築工事	
社会福祉法人憲寿会ときわ東保育園	ときわ東保育園増改築工事	
南城市	玉城陸上競技場クラブハウス改築工事(建築)	
友愛福祉会 友愛保育園	友愛保育園改築工事	
沖縄県	沖縄IT津梁パーク・中核B棟新築工事	

第30期 2011(平成23)年7月～2012(平成24)年6月		86件
沖縄総合事務局	那覇港(浦添ふ頭地区)臨港道路(浦添線)西洲側橋梁仮設工事	
名嘉病院	名嘉病院背後傾斜崩壊防止工事	
沖縄総合事務局	平成22年度 座津武地区道路改良(その1)工事	
沖縄総合事務局	石垣港(新港地区)防波堤(外)築造工事	
日本道路公団九州支社	沖縄自動車道 石川高架橋(下り線)耐震補強工事	
沖縄総合事務局	那覇港(泊ふ頭地区)道路上部工(P12～P20)工事	
(株)松山産業	(仮称)フリーベル南上原プレッサ新築工事	
昭和住宅(株)	シャールレーク那覇旭橋駅前新築工事	
社会医療法人かりゆし会	ハートライフクリニック新築工事	
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ 宜野湾レーブ新築工事	
(株)沖縄住宅	ディアコート仲間新築工事	
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ 銘苅新築工事	
伊平屋村	伊平屋村特産品(モズク)最終選別施設工事(建築・機械)	
(株)アイワバルデ	セゾン・ライト若狭新築工事	

工 事 実 績

発注者	工事名	各期件数
第31期 2012(平成24)年7月～2013(平成25)年6月		83件
沖縄総合事務局	平成23年度 与根高架橋下部工(下りP17～20)工事	
沖縄総合事務局	那覇港(浦添ふ頭地区)臨港道路(浦添線)橋梁下部工(P5)工事	
沖縄総合事務局	那覇港(浦添ふ頭地区)臨港道路(浦添線)橋梁下部工(P2)工事	
沖縄県	読谷中部地区畑地かんがい施設工事(24～2工区)	
沖縄総合事務局	那覇港(浦添ふ頭地区)防波堤(浦添第一)消波ブロック工事	
沖縄県	3・4・8号バイプライン線街路改良工事(H23～1)	
OICC	OBM ホワイトビーチ ハルシー通り斜面保護工事	
(株)日商システム	(仮称)ワイズエステムコート安里新築工事	
昭和住宅(株)	(仮称)シャルレーク南風原津嘉山新築工事	
第一交通産業(株)	(仮称)グランドパレス港川新築工事	
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ泉崎新築工事	
(株)沖建住宅	(仮称)アーバンパレット真嘉比新築工事	
すみれ保育園	すみれ保育園改築工事(建築工事)	
中城村	南上原小学校(仮称)校舎建設工事(校舎棟)(建築Ⅰ工区)	
第32期 2013(平成25)年7月～2014(平成26)年6月		63件
沖縄総合事務局	那覇港(泊ふ頭地区)道路上部工(P8～P12)外1件工事	
沖縄総合事務局	中城湾港土砂処分場二護岸外2件築造工事	
沖縄県	本部港(本部地区)岸壁工事(H25～2)	
那覇港管理組合	浦添ふ頭防風柵設置工事(H24～1)	
沖縄県	沖縄特別自由貿易地域賃貸工場新築工事(26号棟・建築)	
那覇港管理組合	新港ふ頭5号上屋屋根改修工事(H25)	
福岡高等裁判所	那覇地裁庁舎(渡り廊下)耐震改修工事	
(株)メイクマン	メイクマン浦添本店新築工事	
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ浦添城間レーヴ新築工事	
(株)ミルキーエステート	(仮称)ミルコマンション宜野湾長田クルーセ新築工事	
(株)ファンススタイル	レーヴグランディ首里石嶺新築工事	
(株)沖縄キャリア	(仮称)Lala place 真嘉比新築工事	
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ泊レーヴ新築工事	
エールクリエイト(株)	ワイズマークグランデ北谷新築工事	
第33期 2014(平成26)年7月～2015(平成27)年6月		68件
沖縄総合事務局	那覇空港滑走路増設護岸ケーソン工事(第4次)	
沖縄総合事務局	那覇空港滑走路増設護岸AS工区築造他1件工事	
沖縄総合事務局	平成25年度宮古伊良部農業水利事業仲原地下ダム(左岸端部)	
沖縄総合事務局	中城湾土砂処分場C護岸他3件築堤工事	
沖縄防衛局	嘉手納(H25)工場等新設土木工事	
伊平屋村	平成25年度阿波北沢貯水池改修工事	

発注者	工事名	各期件数
伊平屋村	伊平屋村産業連携拠点センター建築工事	
沖縄県	沖縄ろう学校改築工事(校舎・建築Ⅰ工区)	
第11管区海上保安本部	那覇港湾合同庁舎改修工事	
(株)ミルキーエステート	(仮)ミルコマンション宜野湾真栄原クルーセ新築工事	
学校法人 SOLA 沖縄学園	学校法人 SOLA 沖縄学園第二校舎新築工事	
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ美栄橋レーヴ新築工事	
合同会社泊陽	泊陽ビル新築工事	
(株)NIPPO	ル・サンク旭橋新築工事	
エールクリエイト(株)	(仮称)ワイズマークグランデ北谷Ⅱ新築工事	
第34期 2015(平成27)年7月～2016(平成28)年6月		76件
沖縄総合事務局	平成26年度糸満高架橋上部工(上りP5～P8)工事	
沖縄総合事務局	那覇空港滑走路増設護岸消波ブロック工事(第13次)	
沖縄県	本部港(本部地区)防波堤(沖)ケーソン製作工事(H27～1～北振)	
沖縄総合事務局	那覇港(新港ふ頭地区)防波堤(新港第一)(改良)上部工事	
沖縄県	市道国際センター線都市モノレール建設工事(下部工)	
伊平屋村	平成27年度伊平屋漁港突堤工事	
沖縄総合事務局	平成27年度世富慶IC(1号本線・Bランプ)上部工工事	
沖縄総合事務局	平成25年度港川高架橋下部工(下りP6、P7)工事	
伊平屋村	平成27年度伊平屋村火葬場増改築工事	
伊平屋村	伊平屋村営住宅我喜屋8団地建築工事	
南風原町	北丘幼稚園園舎新增築工事(建築)	
(株)NIPPO	ル・サンク西街新築工事	
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ仲井真レーヴ新築工事	
(株)沖建住宅	アーバンパレット港川学園通り新築工事	
学校法人沖縄科学技術大学院大学学園	沖縄科学技術大学院大学臨海実験施設新営その他工事	
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ上間レーヴ新築工事	
第35期 2016(平成28)年7月～2017(平成29)年6月		73件
沖縄県	本部港(本部地区)防波堤(沖)工事(H28～3～北振)	
沖縄県	渡名喜漁港第2沖防波堤消波ブロック製作工事(H28)	
沖縄総合事務局	石垣港(新港地区)岸壁(－9.0m)②船だまり側築造工事	
嘉手納契約事務所	滑走路及び誘導路ライン引き工事	
嘉手納契約事務所	誘導路E南側補修工事	
沖縄県	沖縄空手会館新築工事(武道棟・建築)	
沖縄防衛局	空自那覇外(27)庁舎新設等建築工事	
西原町	坂田小学校増改築工事(建築2工区)	
伊平屋村	伊平屋小学校校舎増改築工事(仮設校舎)	
沖縄県	北谷浄水場高圧電気棟建築工事	

工 事 実 績

発注者	工事名	各期件数
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ西原レーヴ新築工事	
社会福祉法人幸福社会あゆみ保育園	社会福祉法人幸福社会あゆみ保育園増築工事	
アンリッシュ食品工業(株)	アンリッシュ食品工業冷凍工場建設工事	
(株)ファンススタイル	(仮称)レーヴ西原Ⅱ新築工事	

第36期 2017(平成29)年7月～2018(平成30)年6月	67件
沖縄防衛局	牧補(H28)警衛所等(国道58号線沿)新設土木工事
沖縄総合事務局	石垣港(新港地区)岸壁(－9.0m)②築造工事
沖縄総合事務局	平成29年度恩納南BP1工区橋梁上部工工事
沖縄県	浦添西原線都市モノレール建設工事(地下構造物H27－NATM)
伊平屋村	平成29年度田名漁港第3突堤・－2.5m泊地工事
嘉手納契約事務所	KMACC 7025 那覇軍港小型船停泊場改修工事
嘉手納契約事務所	KMACC 7019 嘉手納B3405、3400貨物ヤード搬入出口改修工事
昭和住宅(株)	(仮称)シャルレーク首里寒川造成工事
嘉手納契約事務所	KMACC 7022 戦闘機格納用スロープ 土間修復工事
嘉手納契約事務所	KMACC 7020 嘉手納ワシントンハイツ188世帯外壁補修工事
伊平屋村	伊平屋村小学校校舎増改築工事
北中城村	北中城中学校校舎改築工事(1工区)
(株)日商エステム	(仮称)ワイズエステムコート伊祖ウエスト新築工事
社会福祉法人友興会	(仮)児童心理治療施設及び併設教育施設新築工事
昭和住宅(株)	シャルレーク首里城公園新築工事
(株)ファンススタイル	(仮称)レーヴ我如古新築工事
(有)大三建装工業	(仮称)大三建装工業社屋新築工事

第37期 2018(平成30)年7月～2019(令和元)年6月	66件
沖縄総合事務局	那覇空港滑走路増設5工区・6工区埋立工事
沖縄総合事務局	那覇空港滑走路増設アンダーパス外1件工事
沖縄総合事務局	石垣港(新港地区)岸壁(－10m)築造工事
沖縄防衛局	シュワブ(H27)仮設道路工事(8工区)
沖縄総合事務局	平成29年度北丘高架橋OFFランプ上部工工事
沖縄防衛局	シュワブ(H27)仮設道路工事(1工区)
沖縄県	渡名喜漁港第2冲防波堤消波ブロック製作・設置工事(H29－2)
那覇港管理組合	(仮称)那覇港総合物流センター新築工事(物流棟・本体)
沖縄県	城間前田線都市モノレール浦添前田駅建設工事(建築)
沖縄県	沖縄県立具志川職業能力開発校本館建替工事
伊平屋村	平成29年度 伊平屋村堆肥センター機能強化工事(建築)
(株)日商エステム	(仮称)ワイズエステムコート伊祖イースト新築工事
社会福祉法人稲穂会	子どもの森保育園改修工事
沖縄都市モノレール(株)	浦添前田駅インフラ外部建設工事(建築)

発注者	工事名	各期件数
第38期 2019(令和元)年7月～2020(令和2)年6月		60件
沖縄県	伊計平良川線世開橋補修工事	
伊平屋村	平成30年度 伊平屋製糖工場外構工事	
米陸軍日本地区技術本部	W912HV18C00004 那覇軍港浚渫工事	
FEAD Camp Butler	FRM 4016 ハンセンB2327ボイラー燃料タンク取替工事	
沖縄県	てだこ浦西駅パークアンドライド駐車場新築工事(建築)	
中城村	中城村役場新庁舎建設工事(建築工事)	
伊平屋村	平成31年度 伊平屋製糖工場ヤード屋根工事	
沖縄県	県営南風原団地立替工事(第2期・建築1工区)	
社会福祉法人友愛会	豊見城中央病院移転新築工事	
(株)日商エステム	ワイズエステムコート北谷パークヒルズ新築工事	
エールクリエイト(株)	ワイズグレイシティ赤嶺新築工事	
(株)住太郎ホーム	(仮称)ベアーズコートライカムグランデ新築工事	
琉球コーポレーション(株)	マナーズ首里金城町新築工事	
エールクリエイト(株)	(仮称)ワイズ南桃原新築工事	
(株)63	63ビル新築工事	
FRM OKINAWA	FRM 4087 嘉手納P526倉庫新設工事	
(株)ワークマン	ワークマンプラス浦添経塚店(仮称)新築工事	
嘉手納契約事務所	KMACC 7026 嘉手納基地住宅86世帯解体工事	

第39期 2020(令和2)年7月～2021(令和3)年6月	60件
沖縄総合事務局	平成30年度名護東道路4号トンネル工事
沖縄防衛局	ホワイティビーチ(30)ユーティリティ整備土木工事
沖縄防衛局	トリイ(30)北側護岸(1402)新設土木工事
沖縄防衛局	陸自宮古島(30)訓練場地区造成工事(その2)
沖縄県	中城湾港(新港地区)海邦橋耐震補強工事(R2)
伊平屋村	令和2年度田名漁港－3.0m航路浚渫工事
沖縄県	県立那覇A特別支援学校(仮称)新築工事(建築1工区)
伊平屋村	伊平屋製糖施設(排水処理棟・浄化処理棟・海水ポンプ棟)新築工事
伊平屋村	伊平屋製糖施設(含みつ糖製造)新築工事(1工区)
伊平屋村	伊平屋中学校体育館大規模改修工事
(株)長谷工不動産・(株)NIPPO・大和ハウス工業(株)	(仮称)那覇市古波蔵3丁目新築工事
(株)プレサンスコーポレーション	(仮称)プレサンスロジェ西崎レーヴ新築工事
(株)エン・エンタープライズ	(仮称)エンズ北谷浜川新築工事
(有)住太郎不動産	(仮称)ベアーズコンドミニアム新築工事
米陸軍日本地区技術本部	MATOC 0061 トリイB243,B251改修工事
(株)プレサンスコーポレーション	プレサンスロジェおもるまちレーヴ新築工事
シンパホールディングス(株)	シンパホールディングス(株)本社ビル修繕工事

編集後記

本記念誌は、創業50周年の節目にあたり、株式会社 太名嘉組の歴史と経営の軌跡を社史としてまとめております。記念誌制作を進めるにあたり、創業者の決意・経営方針及び多くの関係者の皆様の弊社へのご支援ご協力を新たにする機会となりました。皆様方には、本記念誌により株式会社 太名嘉組の経営にご理解いただければ幸いです。また社員におかれては、弊社の創業100年、150年の発展に向けた、指針にいただければと思います。

記念誌制作委員長
専務取締役 安谷屋 恵三



太名嘉組50年史

2022 (令和4) 年7月発行

発行

株式会社太名嘉組
沖縄県浦添市大平2丁目1番1号
098-878-9558 (代)

太名嘉組50年史制作委員会

安谷屋 恵三 平良 整 与那覇 英範
町田 宗徳 大城 雄哉 小橋川 典秀

編集・デザイン

高安 夏子 比屋根 高仁
照屋 孝奈 南風原 慧
(光文堂コミュニケーションズ株式会社)

撮影

鬼丸写真事務所

印刷

光文堂コミュニケーションズ株式会社
沖縄県南風原町字兼城577
098-889-1121 (代)